

# 世界が 懸念 していること

2025年6月

# 目次

1

まとめ

2

各国が進む方向

3

懸念事項  
スポットライト:  
移民管理

4

国別  
スポットライト:  
ポーランド

5

世界の懸念事項:  
全リスト

6

世界の懸念:  
長期的トレンド

7

経済フォーカス

8

調査手法

# 世界が懸念していること

イプソスの「世界が懸念していること」調査では、世界30か国で現在最も重要な社会問題や政治問題は何であると考えているのかを調査し、最新のスコアとその背景を10年分のデータをもとに探ります。

このグローバルサマリーレポートでは、世界中で最も懸念されていることを、自国が正しい方向/間違った方向のどちらに進んでいるかという人々の意見と共にご紹介しています。

調査結果のさらなる分析は、  
[www.ipsos.com](http://www.ipsos.com)  
でもご覧いただけます。

詳細については、  
[Teodros.Gebrekal@ipsos.com](mailto:Teodros.Gebrekal@ipsos.com)  
までお問い合わせください。

=Report\_1175

# まとめ

## 01. 犯罪、暴力とインフレ

今月も、犯罪と暴力、そしてインフレが30か国で共同で最大の問題となっていますが、どちらも先月からわずかに減少し、32%がこれらを挙げています。

ペルーでは、犯罪に対する懸念は5ポイント低下していますが、依然として68%が犯罪を懸念しており、最も懸念している国となっています。2024年9月以来、それはペルーの最優先事項となっています。

北米では、ドナルド・トランプ米大統領による関税戦争が続いているにもかかわらず、インフレ懸念の月間変化は劇的ではないものの、懸念は依然として高いようです。カナダ国民の半数(50%)は懸念していると答え(先月と同率)、米国では5分の2以上(43%)が懸念を表明しており、これは先月よりわずかに増加しています。

## 02. 失業

30か国全体で失業を懸念する人の割合はわずかに増加して28%となっています。

アルゼンチンでは失業に関する懸念が記録的なレベルに達しています。今月、それを言及する割合は6ポイント上昇して半分強(52%)となり、2019年10月の56%以来の最高値となっています。

同様に、韓国の不安は3年以上ぶりの高水準に達しています。懸念は5ポイント上昇して50%となり、2022年3月(53%)以来の高水準となっています。

## 03. 移民管理

30か国全体で、移民管理に関する懸念は依然として17%です。

英国では、不安を感じている人が5ポイント増加して41%となり、9年ぶりの高水準に達しています。これは、懸念が41%だった2016年7月(ブレグジット(EU離脱)投票の1か月後)以来の最高値です。

チリ(41%が懸念)を除き、当社のリストで最も懸念する国トップ10の残りはヨーロッパの国です。

さらに詳しく知りたい方は、最新の[世界難民の日のレポート](#)をご覧ください。

# 世界が懸念していること 2025年6月

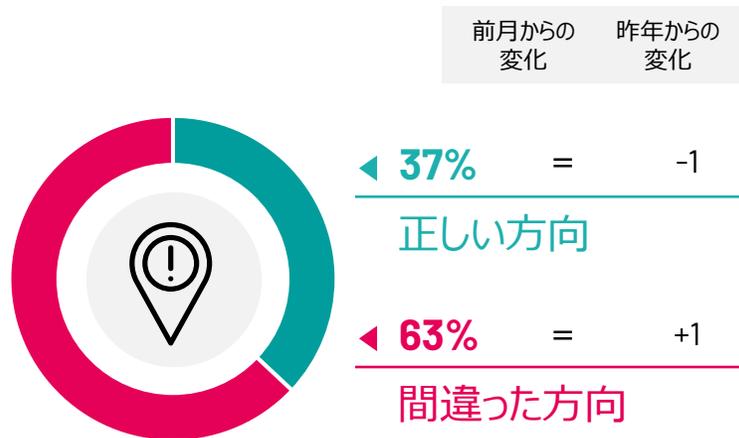
## 最も懸念していることトップ5

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。

	前月からの 変化	昨年からの 変化
犯罪と暴力	-1	+2
インフレ	-1	-1
貧困と社会的不平等	=	=
失業率と雇用	+1	+2
汚職、経済的・政治的スキャンダル	+1	+2

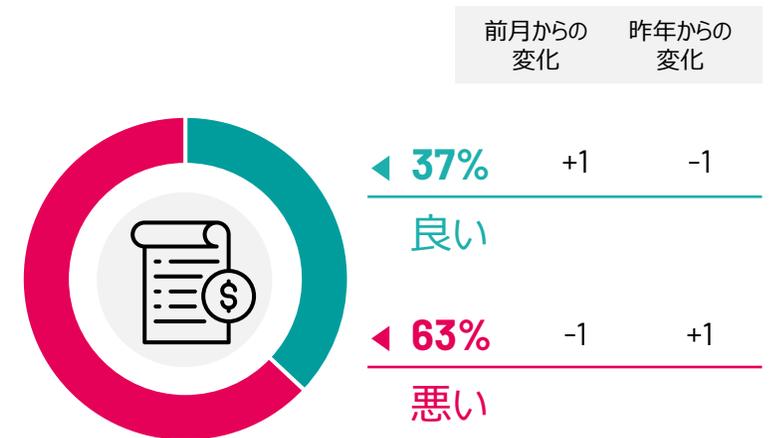
## 国の状況

Q: 全般的に見て、この国は正しい方向へ向かっていると思いますか、それとも間違った方向に向かっていると思いますか。



## 経済の状況

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



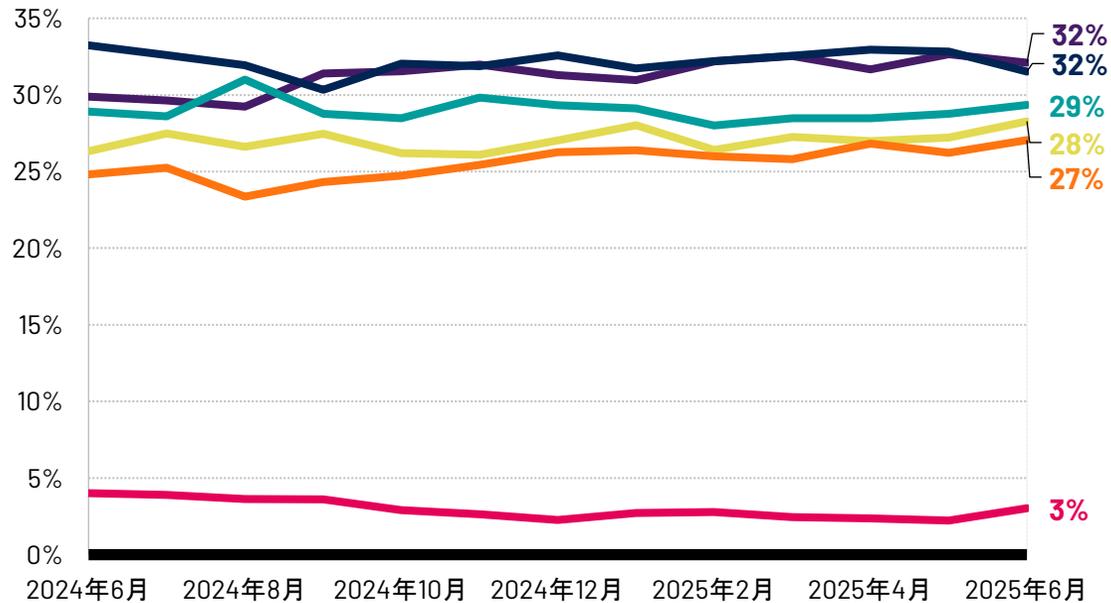
対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。 フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

# 世界が懸念していること 12か月のトレンド

## 最も懸念していることトップ5

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。



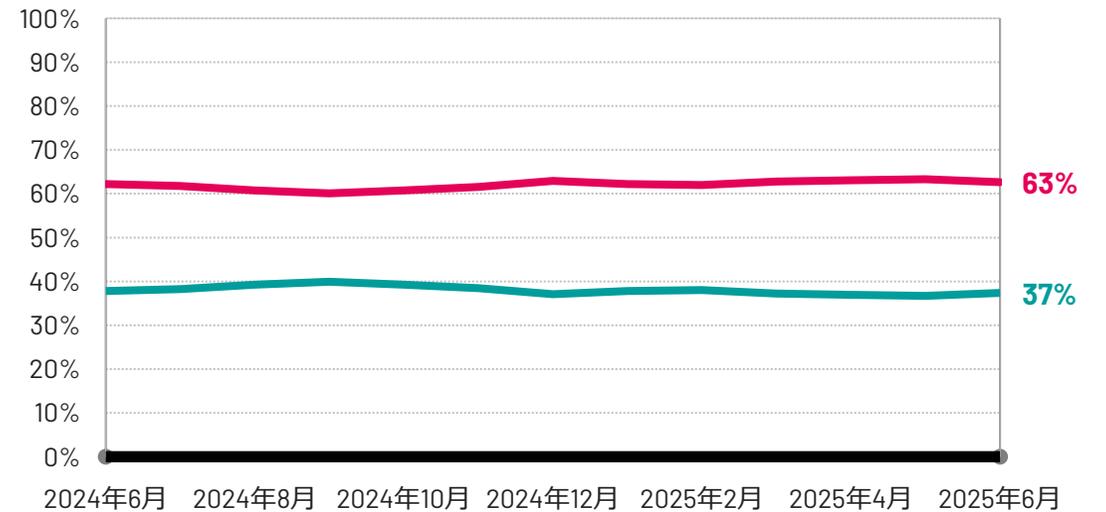
犯罪
インフレ
不平等
失業
汚職
コロナウイルス (Covid-19)

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: Ipsosグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。 フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

## 国の状況

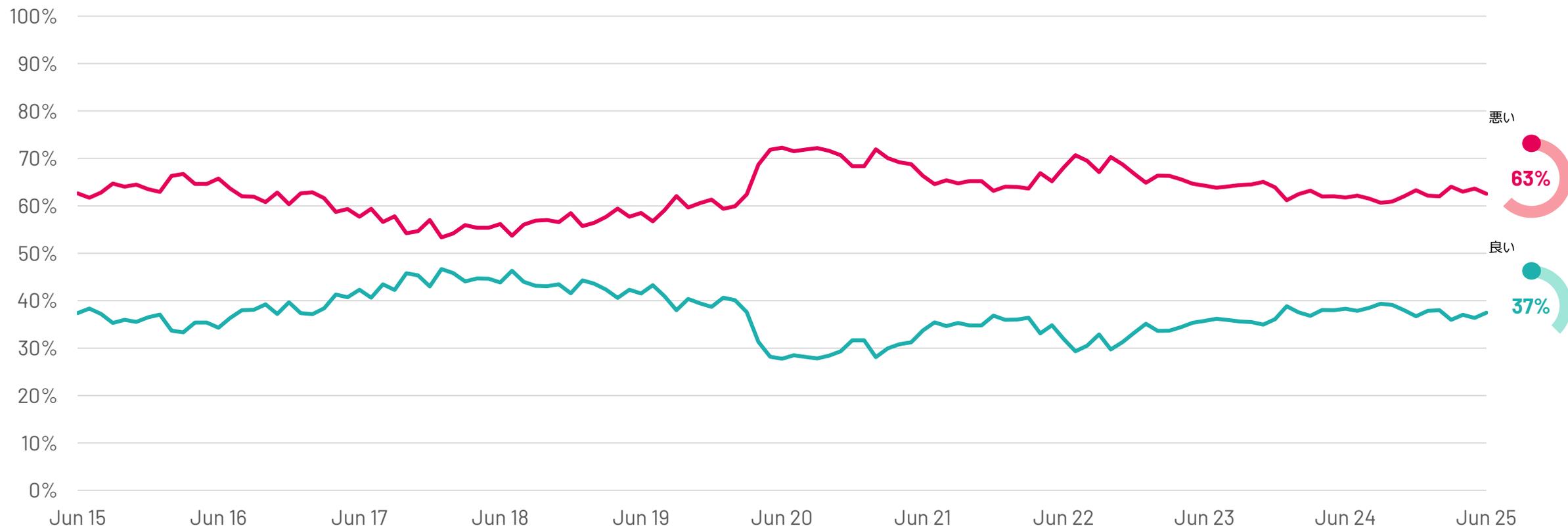
Q: 全般的に見て、この国は正しい方向へ向かっていると思いますか、それとも間違った方向に向かっていると思いますか。



正しい方向
間違った方向

# 世界経済の現状

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。  
(「とても良い」または「やや良い」と「とても悪い」または「やや悪い」の割合)



対象: 2025年5月23日～2025年6月6日、参加30か国の16～74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。 フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

# 各国が進む方向

全対象国

# 正しい方向/ 間違った方向 モニター

対象: 2025年5月23日～2025年6月6日、参加30か国の16～74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

今月、30か国全体で自国が「正しい方向に向かっている」と答えた人の割合は37%にとどまっています。これは昨年同時期(38%)よりもわずかに低い数字です。

今月、南アフリカは「自国は正しい方向に向かっている」と答えた人の割合が前月比で全30か国中最も大きく減少し、9ポイント減の25%となっています。

この世論調査のウェーブは5月23日から6月6日にかけて実施され、その間にポーランドは5月18日の選挙で明確な勝者が決まらなかったため、6月1日に2回目の投票を実施しました。こうした不確実性の中でも、ポ

ーランドは正しい方向に進んでいると答えた人の割合は4ポイント上昇して44%となり、これは2025年初頭と同水準ですが、昨年6月に同じ回答をした49%よりはまだ低い結果となっています。

韓国のスコアは(まだ比較的低いとはいえ)上昇しており、今月の正しい方向スコアは5ポイント増加して20%となっています。

# 37%

30か国で37%が、自国が「正しい方向に向かっている」と回答しています。

# 正しい方向/ 間違った方向 モニター

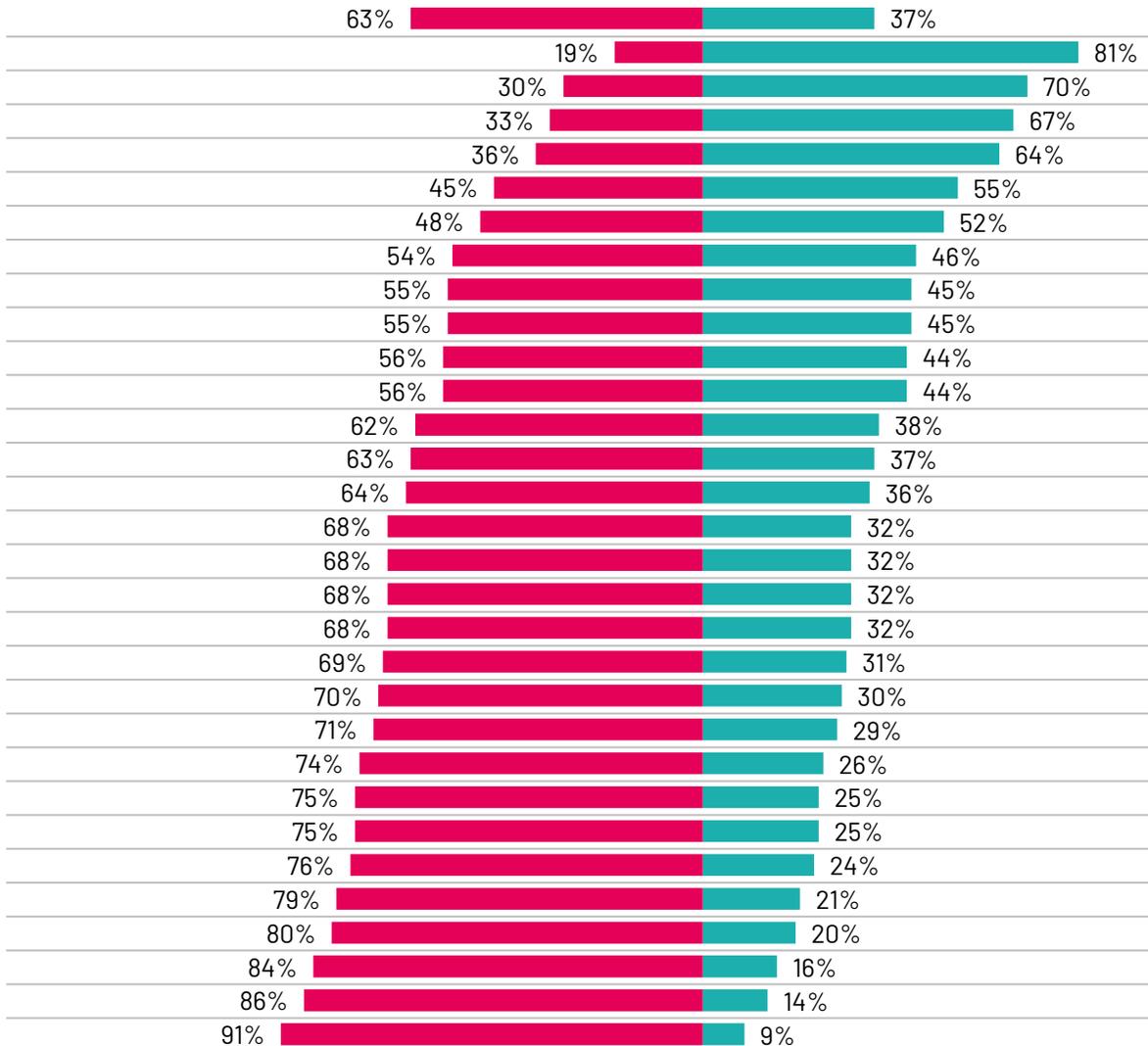
対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

## 国

世界
シンガポール
インドネシア
マレーシア
インド
アルゼンチン
オーストラリア
カナダ
米国
メキシコ
タイ
ポーランド
アイルランド
ブラジル
スペイン
コロンビア
英国
イタリア
ベルギー
スウェーデン
チリ
ドイツ
イスラエル
トルコ
南アフリカ
日本
オランダ
韓国
ハンガリー
フランス
ペルー

Q: この国は正しい方向に向かっていると思いますか、それとも間違った方向に進んでいると思いますか? (2025年6月)



正しい方向

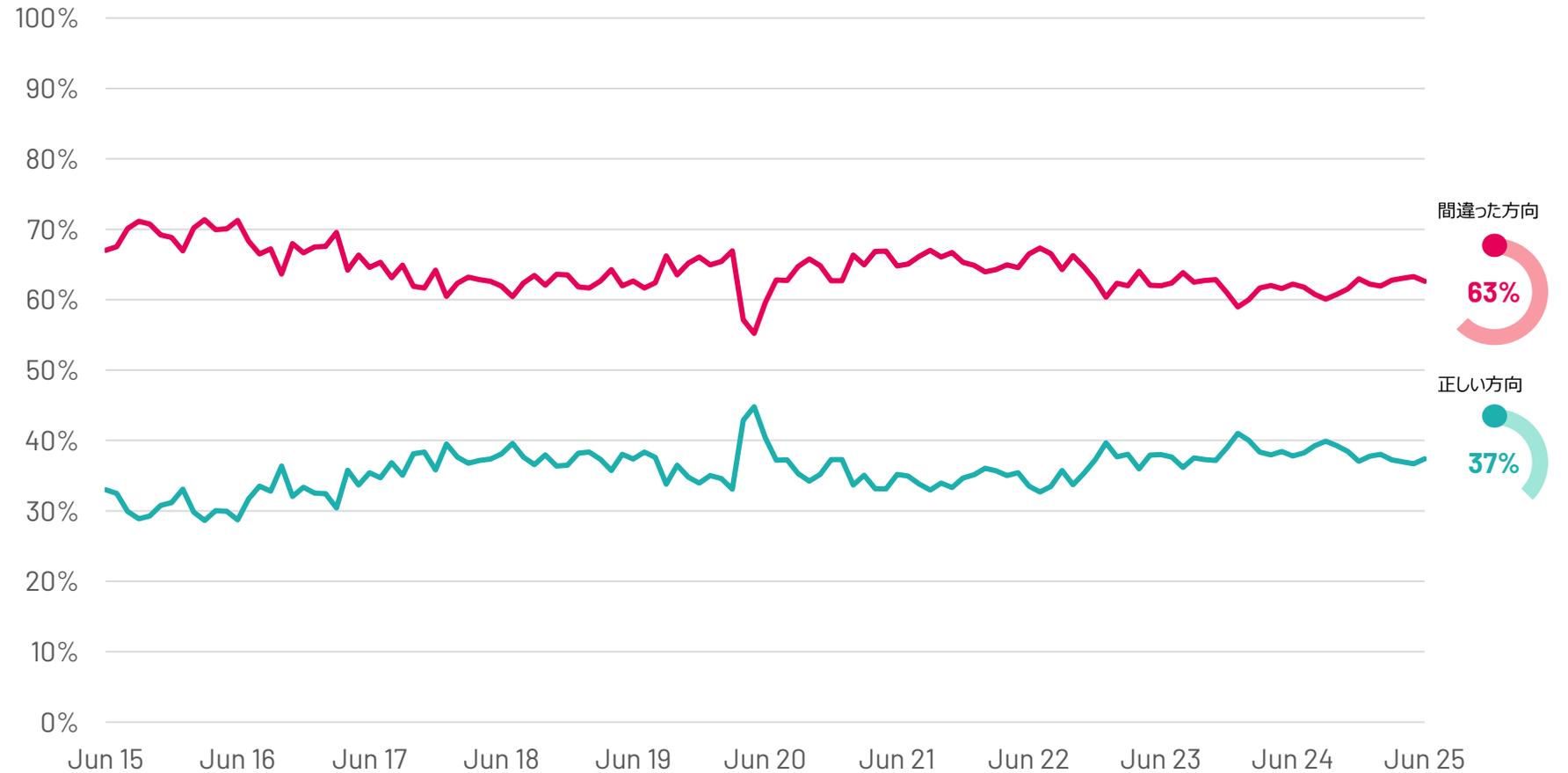
間違った方向

# 世界の正しい/ 間違った方向

世界各国の平均スコア

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。  
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: この国は正しい方向に向かっていていると思いますか、それとも間違った方向に進んでいると思いますか?



# 懸念事項スポットライト： 移民管理

# スポットライト: 移民管理

移民管理は現在、論争を呼ぶ問題であり、特に北米とヨーロッパで世界中で政治的議論の焦点となっています。紛争が激化し、気候変動が悪化する中、移民政策は引き続き緊急の問題となるでしょう。

[国連難民高等弁務官事務所 \(UNHCR\)](#)によれば、2024年末までに、世界中で1億2,300万人を超える人々が強制的に家を追われました。これには3,100万人の難民が含まれており、そのうち73%が低所得国および中所得国で受け入れられており、これらの国々が直面している不均衡な圧力を浮き彫りにしています。

『世界が懸念していること』調査では、移民管理を問題として10年以上にわたって追跡してきました。今回、いくつかの調査結果を紹介します。各国の懸念の割合はパンデミック前の水準を上回り、今月は17%が懸念していると回答しています。2019年6月は15%のスコアを記録しました。

(次のスライドへ)

# 1.23

2024年には世界で1億2,300万人が強制的な避難を余儀なくされました。

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

# スポットライト: 移民管理

パンデミックの影響は今もなお感じられます。次のスライドに見られるように、国境が閉鎖されたため、G7諸国全体で移民に対する懸念が低下しました。規制が緩和され始めると、インフレのときと同じように、不安のレベルが上昇することがわかります。

例えば、こうした懸念の着実な高まりは、ヨーロッパの一部の地域で顕著に見られます。英国では、移民に対する懸念が2019年6月の25%から2025年6月には41%に増加すると見込まれています。そして、過去数か月間で、懸念を表明する英国国民の割合は、2025年3月の32%から2025年6月の41%へと9ポイント上昇し、現在では国の最優先事項と

なっています。

アイルランド(41%)、チリ(41%)、ドイツ(37%)でも同様のレベルの懸念が見られます。なお、実査は最近の北アイルランドの暴動の前に完了しています。

興味深いことに、米国では移民に関する議論が続いているにもかかわらず、移民に対する懸念は減少しています。2024年10月に32%のピークを迎え、現在、2025年6月には不安は20%に達しています。とはいえ、依然として政治的な分断は明らかで、共和党支持者の32%が懸念しているのに対し、民主党支持者は12%となっています。

こうした懸念は、最新の[世界難民の日](#)レポートにも反映されているようです。このレポートでは、亡命希望者の多くは主に経済移民であるという認識がかなり広範に広がっていることがわかりました(29か国で62%)。しかし、戦争や迫害から逃れてきた人々に避難所を提供することに対する支持は強いようです(67%)。しかし、[スライド17](#)をよく見ると、裕福な国々、特にG7は、裕福な国々が財政支援を提供する道徳的責任を負っていることに同意する割合が低いことがわかります。

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

# スポットライト: 移民管理

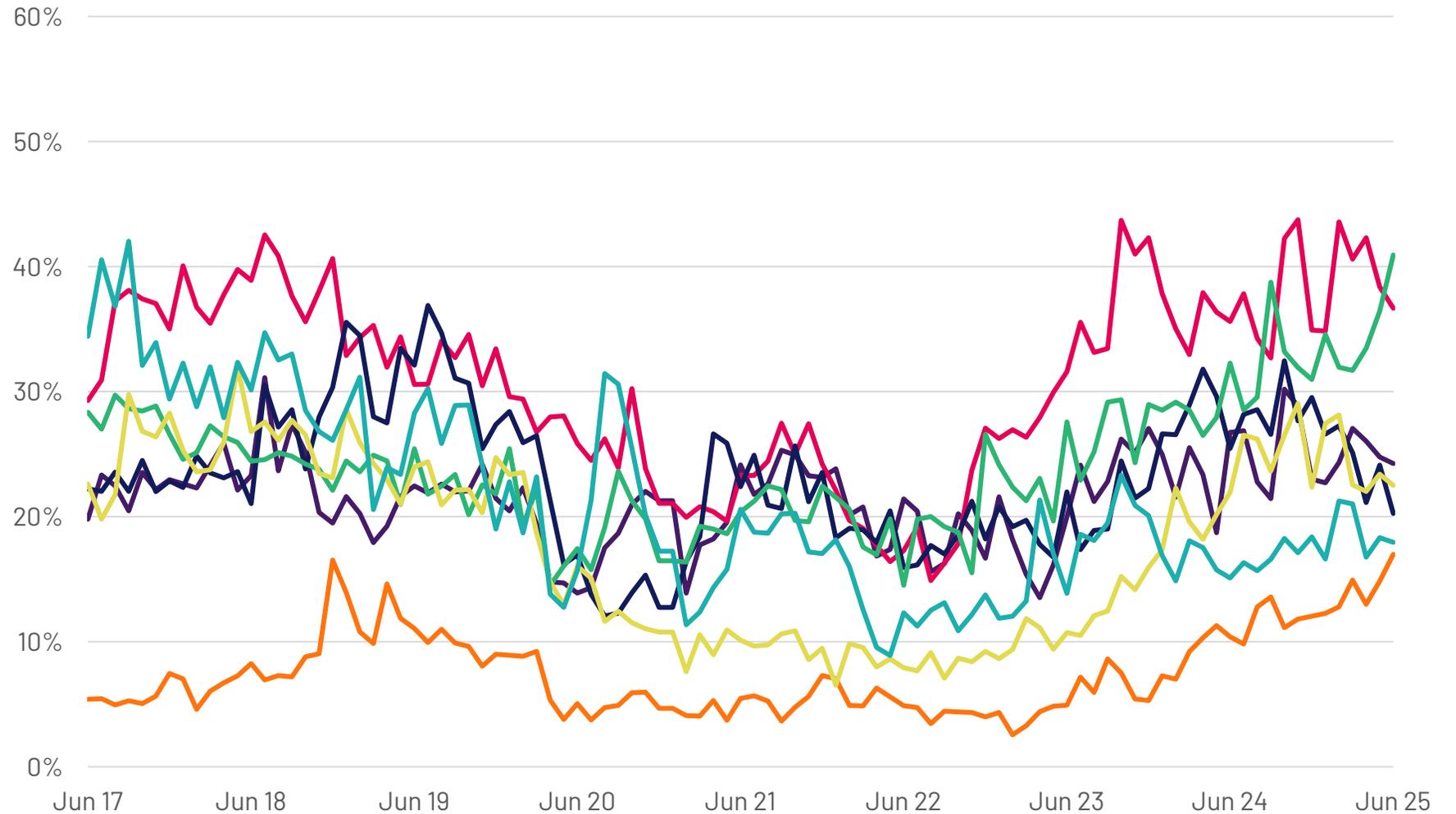
Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。

## 移民管理

G7

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月



フランス

米国

イタリア

カナダ

日本

ドイツ

英国

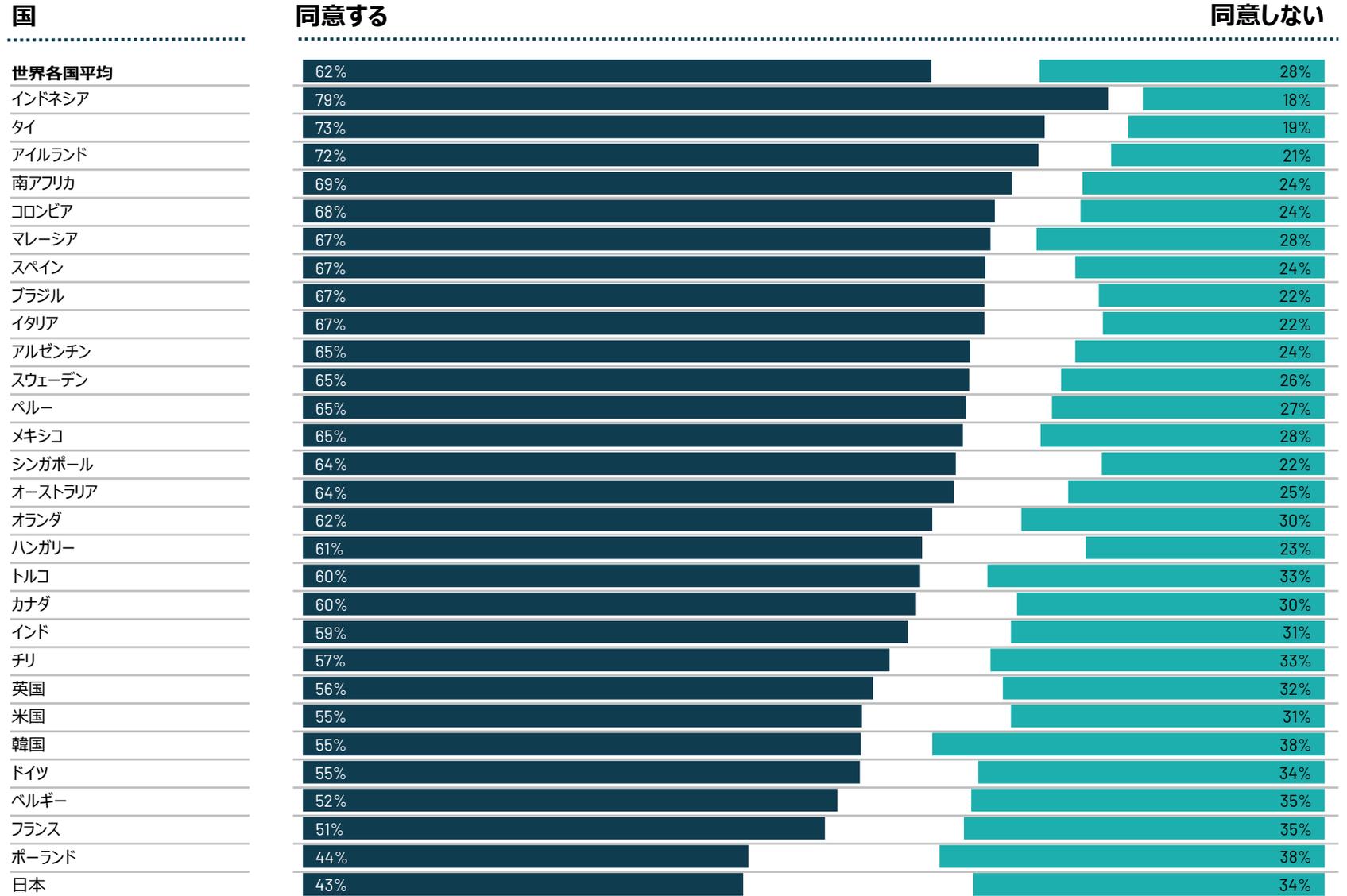
## Q. 以下の各記述について、どの程度同意しますか？

富裕国には、自国内の難民と他国の難民の両方に対して、経済的支援を提供するという道義上の責任がある



対象: 29か国の16歳以上の22,734人、2025年4月25日～5月9日

出典: [世界難民の日2025](#)



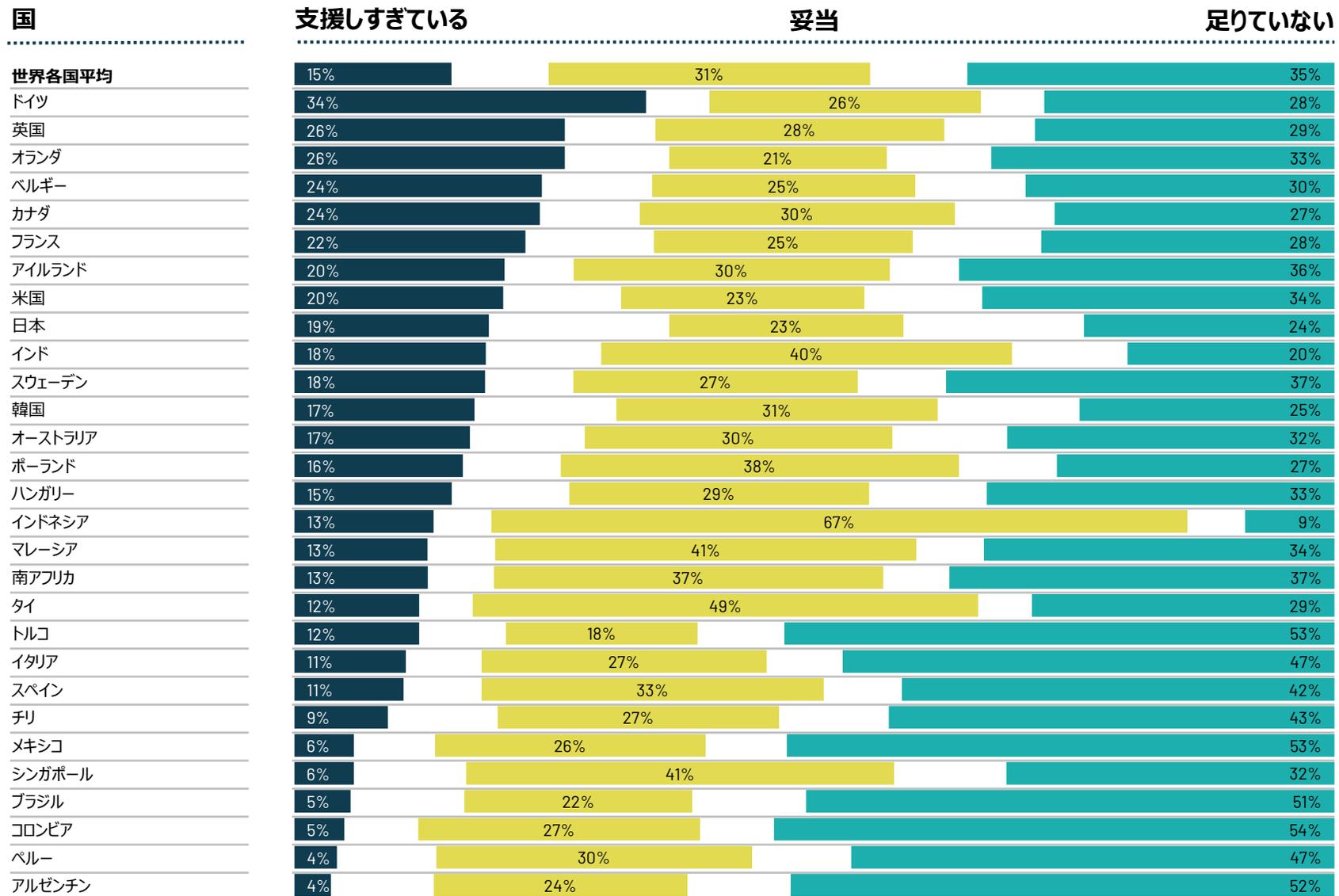
## Q. また、富裕国による現在の難民支援の度合いについて、どう思われますか？

裕福な国々が難民を支援するために十分な支援をしていないと考える人のほうが、支援が多すぎると考える人のよりも多い結果となっています。この見解は、ブラジル、コロンビア、ペルー、アルゼンチンで特に強いようです。

ドイツは際立っており、裕福な国々は、取り組みが足りないというよりは、取り組みが多すぎると考える人の方が多いです。これは、資源の圧迫や統合の課題に対する懸念を反映している可能性があります。

対象: 29か国の16歳以上の22,734人、2025年4月25日～5月9日

出典: [世界難民の日2025](#)



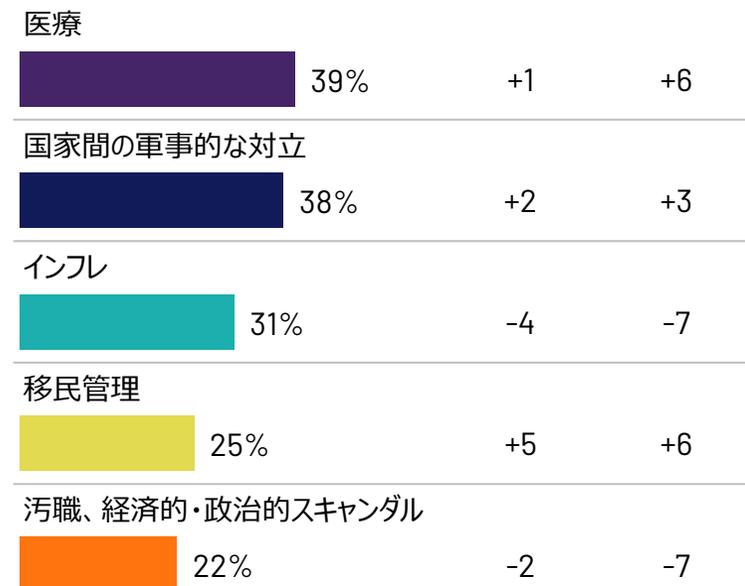
# 国別スポットライト： ポーランド



# ポーランドサマリー: 2025年6月

## 最も懸念していることトップ5

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。

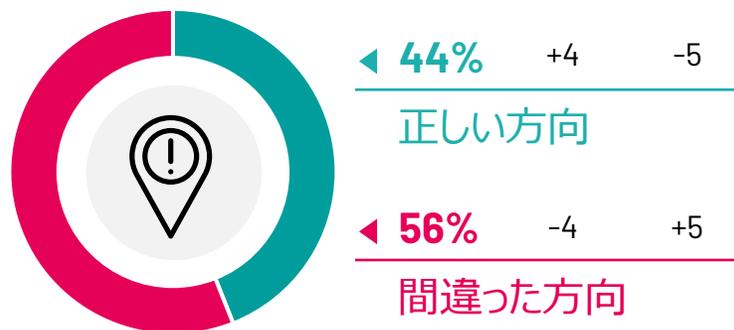


対象: 16~74歳のポーランド国民の代表サンプル、約500人

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。 フィルター: 国: ポーランド | 現在のウェブ: 2025年6月

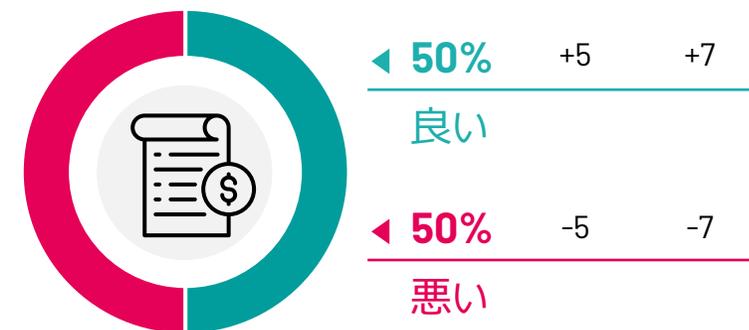
## 国の状況

Q: 全般的に見て、この国は正しい方向へ向かっていると思いますか、それとも間違った方向に向かっていると思いますか。



## 経済の状況

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



## スポットライト: ポーランド

時期にご注意ください。ポーランドの最新の政治選挙は**5月18日**から**6月1日**の間に行われました。今月のポーランドでの実査は**5月29日**から**6月2日**まで行われました。

2023年10月、ポーランドはドナルド・トusk氏率いる新政権を選出しました。その後、国の正しい方向スコアは10月の27%から12月の50%に上昇しました。それ以来、同国の正しい方向スコアは6ポイント低下し、今月は44%となっています。

最大の懸念事項ではないものの、移民管理に関する懸念が高まっていることがわかります。昨年の同時期には、不安を表明したポーランド

国民の割合は19%でしたが、今月は4分の1(25%)に上昇しています。これは選挙で熱心に議論されたことであり、[2025年世界難民の日](#)に関するイプソスの報告書でも見られた傾向です。

(次スライドへ)

# 25%

のポーランド国民が、移民管理は自国が直面する主要な課題の一つだと考えています。

対象: 16~74歳のポーランド国民の代表サンプル、約500人

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: ポーランド | 現在のウェーブ: 2025年6月

## スポットライト: ポーランド

例えば、2022年にウクライナ戦争が始まったとき、ポーランドでは戦争や迫害から逃れるために人々が避難することを認めることに対する支持は85%でした。2025年にはその数字は51%になります。参考までに、この意見に同意する割合がポーランドより低いのは韓国(50%)のみです。

また、3分の2(65%)は、難民は本当の難民ではなく、経済的利益を得ようとしていると述べており、難民がポーランド社会にうまく溶け込むと考える人は10人中わずか3人(30%)です。

しかし、こうした感情は均等に感じられるわけではなく、政治的な分断が

はっきりと見られます。「世界が懸念していること」調査のデータによれば、左派と自認するポーランド国民のうち、移民管理が問題だと答えたのはわずか5%で、右派の有権者では44%がそう答えています。

一方、ポーランド国民は国家間の軍事的な対立について依然として特に懸念を抱いています。これは現在、国民の38%が挙げている、(医療(39%)に次いで)2番目に大きな懸念事項となっています。ちなみに、2025年4月のピークは39%でした。

(次スライドへ)

# 38%

が、国家間の軍事的な対立が懸念事項であると回答しています。

対象: 16~74歳のポーランド国民の代表サンプル、約500人

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: ポーランド | 現在のウェーブ: 2025年6月

# スポットライト: ポーランド

対象: 16~74歳のポーランド国民の代表サンプル、約500人

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: ポーランド | 現在のウェブ: 2025年6月

さらに詳しい背景を説明するために、ポーランドのPASLリーダーであるJoanna Skrzynska氏は次のように述べました。

「6月1日、ポーランドで大統領選挙の第2回投票が行われ、右派候補のカロル・ナヴロツキ氏が僅差で勝利しました。選挙は、主に投票数の計算に欠陥がある可能性をめぐって論争を巻き起こし続けています。提出された5万件を超える選挙抗議は、根深い社会的分裂を浮き彫りにしています。

国や経済の状況に関する楽観的な見方の高まりは、選挙結果と直接関係しているようには見えません。むしろ季節的な性質なのかもしれません。伝統的に、夏は社会的な気分がよくなる季節

です。

コアインフレ率は一貫して低下し、5月には5年以上ぶりの低水準となる3.3%となったことで、懸念材料となっていたインフレ圧力は和らぎました。それにもかかわらず、主要な不安は変わっていません。主な問題としては、国民の大部分に影響を与えている専門医の診察待ち時間が長いなどの医療問題や、隣国ウクライナの戦争に関連した軍事衝突の脅威などがあります。

選挙運動により重要性を増した問題は移民管理です。多くの右派候補者は移民に関する不安を中心にメッセージを作り上げ、EUの移民協定を批判し、不法な国境越え、犯罪の増加、公共サービスへの負担、労働市場への圧力

などの脅威を強調しました。こうした主張は、多くの場合、誤った情報と単純化に基づいていますが、私たちの調査結果には明確に反映されています。」

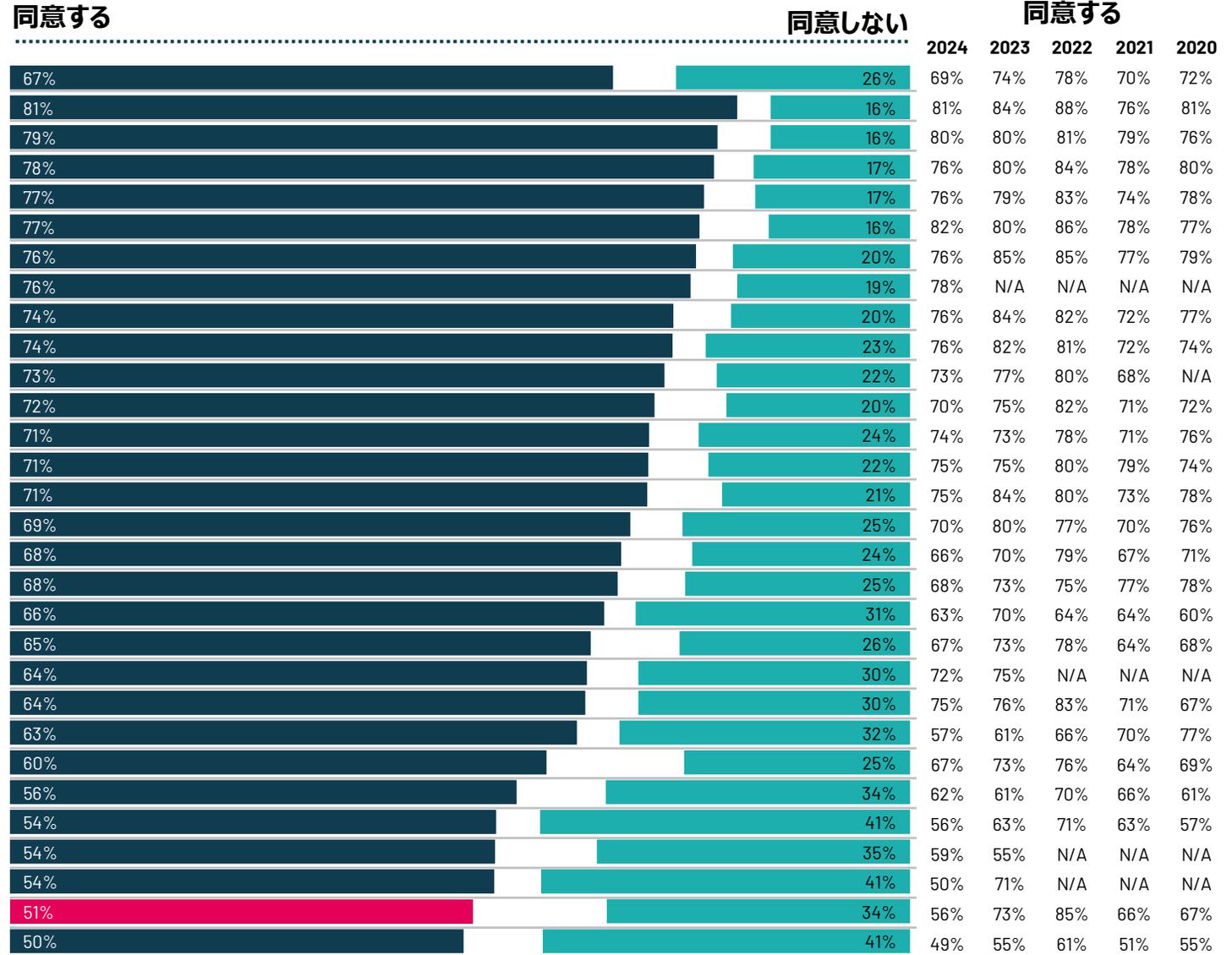
# 01(A). 戦争や迫害から逃れるため、他国(自国を含む)への避難は許可されるべきである



対象: 29か国の16歳以上の22,734人、2025年4月25日～5月9日

出典: [世界難民の日2025](#)

国
世界各国平均
スウェーデン
アルゼンチン
オランダ
オーストラリア
ブラジル
スペイン
アイルランド
カナダ
メキシコ
コロンビア
米国
ドイツ
イタリア
英国
南アフリカ
ベルギー
チリ
マレーシア
フランス
タイ
ペルー
トルコ
日本
インド
ハンガリー
シンガポール
インドネシア
<b>ポーランド</b>
韓国



注: 調査対象国が変更されたため、世界平均はすべての年について直接比較することはできません。

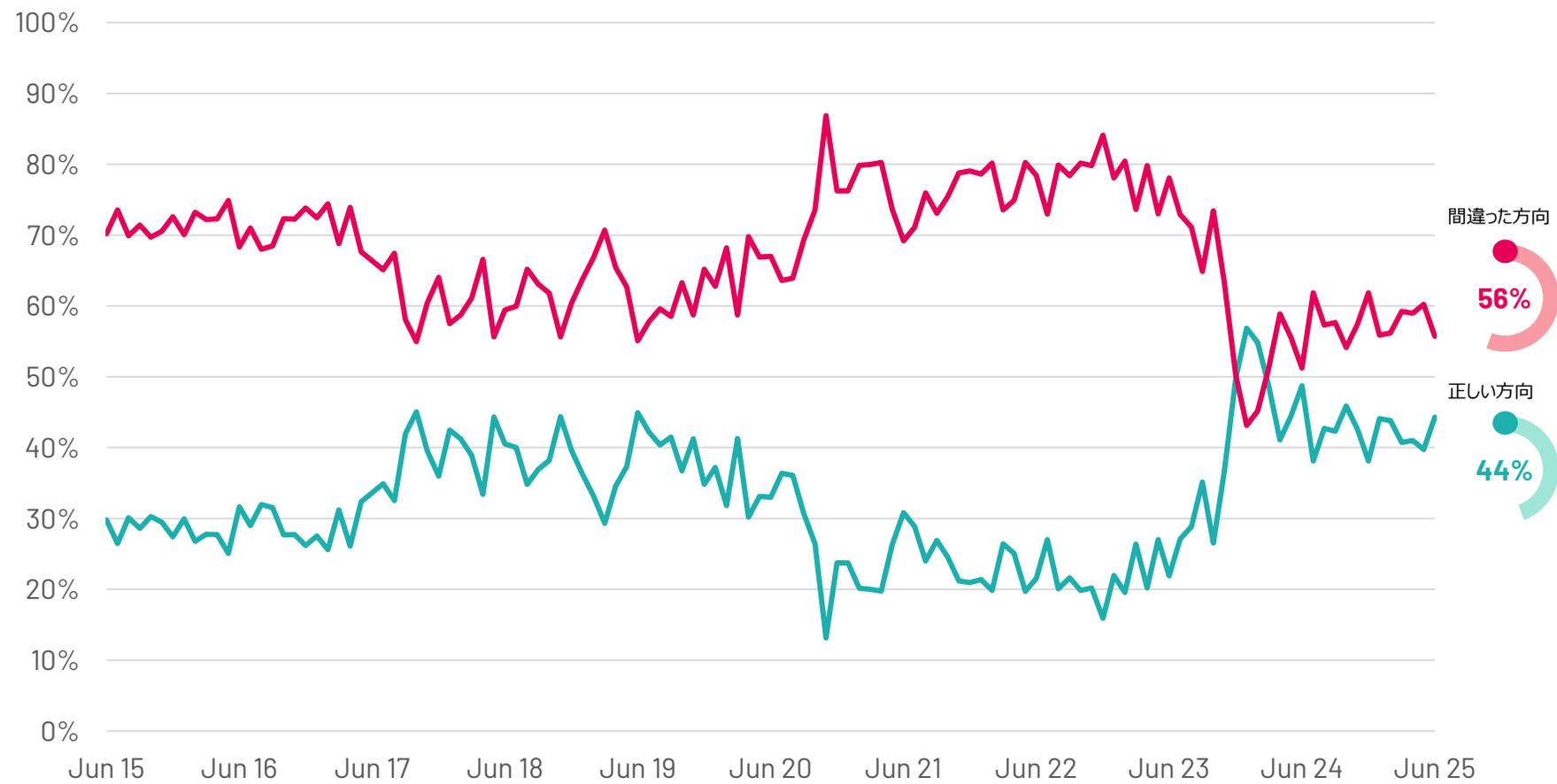


# ポーランド 正しい方向/ 間違った方向

対象: 16~74歳のポーランド国民の代表サンプル、約500人

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: ポーランド | 現在のウェブ: 2025年6月

Q: この国は正しい方向に向かっていていると思いますか、それとも間違った方向に進んでいると思いますか?



# 世界が懸念していることは？

ランキング上位の懸念事項

# 世界の懸念事項: 全リスト

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

2か月連続で、30か国平均では、犯罪/暴力とインフレが同率で最大の懸念事項となっています。両方の問題に言及した割合は、前月比で安定しており、3分の1弱(32%、全体では両方とも1ポイント減少)となっています。

昨年と同時期と比較すると、犯罪/暴力は29か国全体で30%で、インフレは33%でした。

上位5つの懸念事項の残りについては、貧困/不平等は10人中3人(29%)が引き続き選択している一方、失業(28%、+1ポイント)と汚職、経済的・政治的スキャンダル(27%、+1ポイント)への懸念も概ね安定してい

ることがわかります。

# 32%

が、30か国以上で犯罪や暴力、インフレが自国の問題であると回答しています。

# 世界の懸念事項: 全リスト

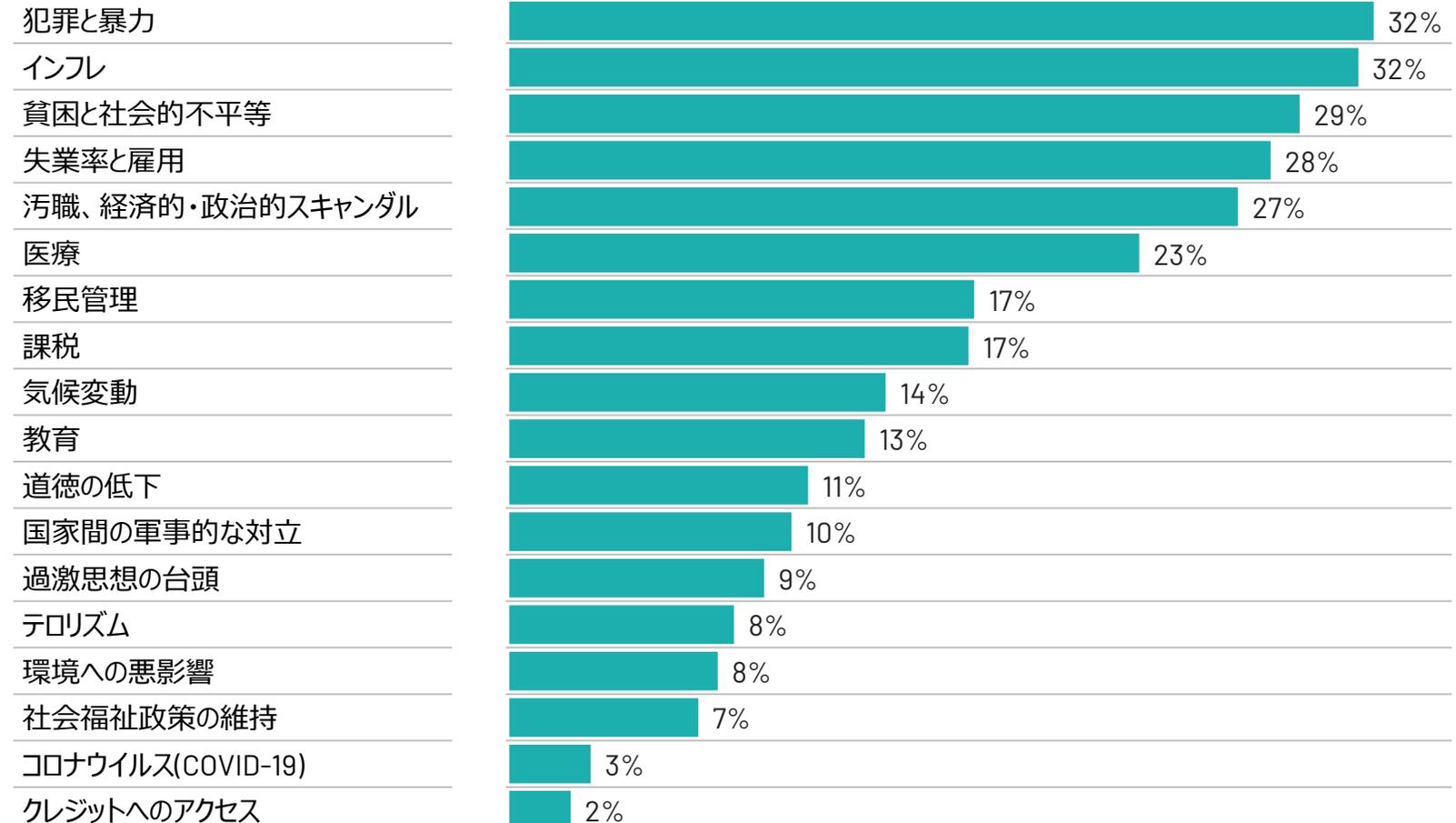
対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。

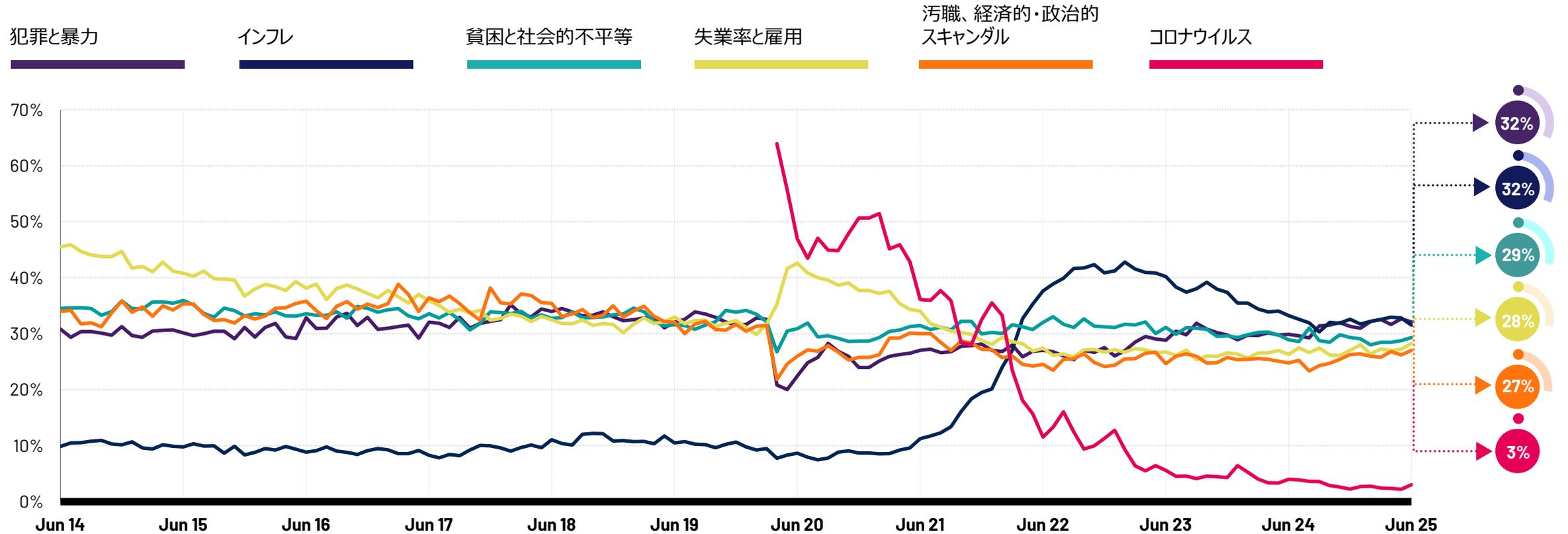
## 懸念事項

## 2025年6月の回答割合 (世界各国平均)



# 世界の懸念: 長期的トレンド

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。世界各国平均



対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。 フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

# 1. 犯罪と暴力

30か国全体で、犯罪に言及する割合は3分の1弱(32%)となっています。これは2024年6月(30%)からわずかに増加しています。

イスラエルでは、犯罪に対する懸念が今月8ポイント増加して40%となり、懸念が最も大きく増加しました。これは2024年6月より17ポイント高く、ハマスの攻撃を受けて、2023年10月(当時は50%)以来の最高スコアとなっています。

ペルーのスコアは先月から5ポイント下がったものの、昨年6月の水準より11ポイント高く、68%が不安を感じています。同様に、チリも非常に懸念しており、わずかに増加して65%となっています。

英国では不安を表明する人の割合が4ポイント上昇し、4分の1(25%)となっています。これは近年の最高値ではなく、2025年3月のスコアは29%に達しています。

同様に、アイルランドのスコアも3ポイント上昇し、懸念があると答えた人の3分の1(33%)にな

りました。これは昨年の同時期より10ポイント高い数字です。

南アフリカでは、不安を感じている人が6ポイント上昇し、ほぼ5分の3(58%)に達しました。これは2023年5月(60%)以来の最高値です。

## 犯罪と暴力が最大の懸念事項となっている国:

- ペルー (68%)
- ブラジル (40%)
- チリ (65%)
- フランス (39%)
- メキシコ (59%)
- スウェーデン (58%)
- コロンビア (42%)

# 32%

が、**犯罪と暴力**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

# 1. 犯罪と暴力

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

国	犯罪と暴力を懸念していると回答した人の割合	前月からの変化	12か月間の変化
世界	32%	-1	+2
ペルー	68%	-5	+11
チリ	65%	+1	-2
メキシコ	59%	-2	+11
スウェーデン	58%	-8	-3
南アフリカ	58%	+6	+6
アルゼンチン	45%	+1	+6
コロンビア	42%	=	+9
ブラジル	40%	-1	-2
イスラエル	40%	+8	+17
フランス	39%	-3	+8
アイルランド	33%	+3	+10
ドイツ	32%	+3	+2
イタリア	31%	=	+8
ベルギー	29%	-4	+1
オーストラリア	29%	-4	-3
トルコ	28%	-1	+6
マレーシア	25%	-1	-2
英国	25%	+4	-1
オランダ	24%	-2	+3
米国	23%	=	-10
タイ	22%	-4	-6
インド	21%	-4	-1
日本	21%	+2	+4
カナダ	20%	-4	=
インドネシア	20%	-2	-1
スペイン	19%	+1	=
韓国	16%	-3	-4
ポーランド	16%	+3	+7
ハンガリー	9%	=	-2
シンガポール	5%	-1	-6

## 2. インフレ

対象: 2025年5月23日～2025年6月6日、参加30か国の16～74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

30か国全体ではインフレを挙げる人の割合はわずかに減少して32%となり、依然として犯罪や暴力と並んで最大の問題となっています。

今月、インフレを懸念していると答えたメキシコ国民の割合は4ポイント上昇して35%となり、昨年の同時期より12ポイント上昇しています。しかし、このスコアは2025年としては例外的なものではなく、3月も35%を記録しています。

北米では、ドナルド・トランプ米大統領による関税戦争が続いているにもかかわらず、前月比の変化は劇的ではないものの、懸念は依然として高いようです。カナダ国民の半数

(50%)は懸念していると答え(先月と同じ)、米国では5分の2以上(43%)が懸念を表明しており、これは先月よりわずかに増加しています。

### インフレが最大の懸念事項となっている国:

- シンガポール(62%)・ インド(35%)
- トルコ(52%)
- カナダ(50%)
- オーストラリア(45%)
- 米国(43%)

# 32%

が、**インフレ**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

## 2. インフレ

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

国	インフレを懸念していると回答した人の割合	前月からの変化	12か月間の変化
世界	32%	-1	-1
シンガポール	62%	=	+16
トルコ	52%	-2	-6
カナダ	50%	=	-4
オーストラリア	45%	-4	-3
ハンガリー	45%	=	+11
米国	43%	+1	-3
マレーシア	37%	+3	+8
インド	35%	-2	-3
メキシコ	35%	+4	+12
アルゼンチン	35%	-5	-16
韓国	34%	=	-5
アイルランド	34%	-1	=
フランス	32%	-1	-8
ブラジル	31%	-2	+7
ポーランド	31%	-4	-7
日本	30%	-2	-4
英国	30%	-6	+3
ドイツ	29%	-2	-1
スペイン	27%	+1	-1
イタリア	26%	-1	=
ベルギー	26%	=	-3
チリ	25%	=	-5
タイ	24%	-9	-10
インドネシア	23%	-3	+3
オランダ	19%	-5	-1
スウェーデン	19%	=	+2
南アフリカ	18%	=	-3
コロンビア	18%	+1	-12
イスラエル	16%	-3	-7
ペルー	15%	+2	-11

### 3. 貧困と社会的 不平等

対象: 2025年5月23日～2025年6月6日、参加30か国の16～74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

30か国全体で、不平等に言及する割合は10人中3人弱(29%)にとどまっています。

ドイツでは、不平等に対する懸念が高まっています。ドイツでそう答えた人の数は5ポイント増加して36%となり、これは今年の同時期よりわずかに高く、2023年9月の37%以来の最高値となっています。

ペルーでは、不安を表明するペルー人の割合が前月比で7ポイント上昇して32%となり、最も大きな変化が見られました。ただし、国民の3分の1が懸念を表明するのは、同国では比較的通常範囲内です。

#### 貧困と社会的不平等が最大の懸念事項となっている国:

- 日本(36%)
- オランダ(32%)

# 29%

が、**貧困と社会的不平等**は自国が直面している重要な問題の一つであると答えています。

### 3. 貧困と社会的 不平等

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

国	貧困と社会的不平等を懸念していると回答した人の割合	前月からの 変化	12か月間 の変化
世界	29%	=	=
アルゼンチン	48%	+2	+7
インドネシア	45%	-1	+5
ハンガリー	38%	-4	-2
タイ	37%	-2	-2
トルコ	37%	+1	+5
コロンビア	37%	+3	+4
日本	36%	-1	=
ドイツ	36%	+5	+2
南アフリカ	35%	+6	+1
ブラジル	33%	=	-5
ペルー	32%	+7	-2
オランダ	32%	-3	-2
マレーシア	30%	+5	=
ベルギー	29%	-1	+4
メキシコ	28%	-1	+3
英国	27%	=	=
スペイン	26%	+2	=
オーストラリア	26%	+1	-5
韓国	26%	=	=
アイルランド	26%	-2	-1
イタリア	25%	-2	-2
スウェーデン	25%	+2	+5
フランス	24%	+3	-1
カナダ	23%	-1	-3
イスラエル	23%	+1	+5
シンガポール	22%	+2	+6
チリ	22%	-3	-2
ポーランド	19%	+1	-3
インド	18%	+1	-1
米国	17%	=	-4

## 4.失業率と雇用

30か国全体で失業を懸念する人の割合はわずかに増加して28%となっています。

アルゼンチンでは失業に関する懸念が記録的なレベルに達しています。今月、これを回答した割合は6ポイント上昇し、ちょうど半分(52%)を超えました。これは2024年6月より5ポイント高く、2019年10月の56%以来の最高値です。

同様に、韓国でも不安は3年以上ぶりの最高レベルに達しています。懸念は5ポイント増加して50%となり、2024年6月より12ポイント上昇し、2022年3月(53%)以来の高水準となっています。

他のアジア太平洋諸国でも今月は雇

用に関する懸念が高まっているようです。シンガポール(52%)も5ポイント上昇し、インドネシア(53%)はわずかに増加し、タイ(31%)は7ポイント急上昇しています。

### 失業率と雇用が最大の懸念事項となっている国:

- 南アフリカ(62%)
- 韓国(50%)
- アルゼンチン(52%)
- スペイン(32%)

# 28%

が、**失業率と雇用**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

# 4.失業率と雇用

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
 フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

国	失業率と雇用を懸念していると回答した人の割合	前月からの変化	12か月間の変化
世界	28%	+1	+2
南アフリカ	62%	-2	+1
インドネシア	53%	+2	+14
アルゼンチン	52%	+6	+5
シンガポール	52%	+5	+20
韓国	50%	+5	+12
コロンビア	41%	-1	-8
マレーシア	35%	+3	+5
チリ	35%	-1	+4
メキシコ	34%	+2	-1
イタリア	34%	+2	=
ペルー	33%	-2	-13
スペイン	32%	=	-1
タイ	31%	+7	+1
インド	31%	-2	-4
カナダ	28%	+4	+11
トルコ	27%	+4	+1
スウェーデン	24%	-1	+10
オーストラリア	24%	+4	+1
ベルギー	22%	+2	+8
日本	18%	=	+1
アイルランド	18%	-2	+3
ブラジル	17%	-1	-5
米国	16%	-1	-1
ポーランド	15%	-3	-2
ハンガリー	15%	+3	-1
英国	14%	+1	=
フランス	12%	=	+1
イスラエル	11%	+1	-1
ドイツ	8%	-1	=
オランダ	4%	-1	-3

## 5. 汚職、経済的・政治的スキャンダル

対象: 2025年5月23日～2025年6月6日、参加30か国の16～74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

30か国全体で汚職に対する懸念を表明した人の割合は、先月からわずかに増加して27%となっています。これも2024年6月からわずかに増加しています。

ハンガリーでは汚職への懸念が言及された割合が7ポイント上昇して55%となり、4年ぶりの高水準に達しています。これは2024年6月より10ポイント高く、2021年6月の60%以来の最高水準です。

同様に、チリは、回答率のレベルが7ポイント上昇したことを受けて、ますます懸念を強めています。このレベルも2024年6月より10ポイント高く、2023年9月(36%)以来の最高値となっています。

米国は徐々に不安を強めています。今月のスコアはわずかに上昇して29%になりました。2025年4月には30%となり、2021年2月にも30%でしたが、それ以降の最高水準となっています。

### 汚職、経済的・政治的スキャンダルが最大の懸念事項となっている国:

- インドネシア(63%)
- マレーシア(48%)
- タイ(45%)

# 27%

が、**汚職、経済的・政治的スキャンダル**は自国が直面している主要課題の一つであると答えています。

# 5. 汚職、経済的・政治的スキャンダル

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
 フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

国	汚職、経済的・政治的スキャンダルを懸念していると回答した人の割合	前月からの変化	12か月間の変化
世界	27%	+1	+2
インドネシア	63%	=	+6
ハンガリー	55%	+7	+10
ペルー	53%	-2	+1
マレーシア	48%	+1	+8
タイ	45%	-3	+7
南アフリカ	43%	=	-7
韓国	41%	-3	+9
コロンビア	40%	+3	+9
ブラジル	37%	=	+10
チリ	36%	+7	+10
スペイン	31%	+4	+4
イスラエル	30%	=	-5
米国	29%	+2	+10
トルコ	28%	-3	+3
メキシコ	27%	+1	+10
アルゼンチン	27%	+5	+5
ポーランド	22%	-2	-7
インド	22%	+1	-1
日本	20%	+2	-5
ベルギー	14%	+1	=
カナダ	14%	+3	+2
イタリア	11%	+1	-2
スウェーデン	11%	+4	-2
アイルランド	11%	=	-1
フランス	11%	+3	+2
オーストラリア	10%	-2	+1
英国	10%	-1	-6
シンガポール	9%	+1	=
ドイツ	8%	=	=
オランダ	7%	-3	-1

## 6. 医療

30か国全体で医療に言及する割合はわずかに減少して23%となっています。

2023年9月以来、ハンガリーは医療を最重要課題としています。今月も同様で、懸念レベルは5分の3強(63%)で安定しています。

通常は医療を主要課題とする国である英国は、今月は医療を挙げた英国国民の割合が4ポイント減って38%となり、順位を下げています。これは昨年6月(40%)より数ポイント低い数字です。

対照的に、米国では不安を表明する人が3ポイント上昇し、4分の

1(24%)になりましたが、これは1年前と同じ水準です。

### 医療が最大の懸念事項となっている国:

- ハンガリー(63%)
- アイルランド(42%)
- ポーランド(39%)
- イタリア(36%)

# 23%

が、**医療**は自国が直面している重要な課題の一つだと答えています。

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

# 6. 医療

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。  
 出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
 フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

国	医療を懸念していると回答した人の割合	前月からの変化	12か月間の変化
世界	23%	-1	=
ハンガリー	63%	-1	+1
アイルランド	42%	-1	-4
カナダ	41%	-1	-2
ポーランド	39%	+1	+6
英国	38%	-4	-2
ブラジル	37%	+1	-1
イタリア	36%	+2	-2
オーストラリア	33%	-1	+4
シンガポール	32%	+2	+6
スペイン	30%	-1	+6
オランダ	28%	-1	-2
コロンビア	28%	-1	+1
フランス	24%	-1	-1
米国	24%	+3	=
スウェーデン	23%	+4	-3
ベルギー	22%	+3	+1
ドイツ	18%	=	+2
メキシコ	18%	-2	-4
南アフリカ	15%	-3	+2
アルゼンチン	15%	+1	+1
チリ	15%	-1	+1
ペルー	13%	-3	=
インド	12%	-1	-3
日本	11%	-1	=
マレーシア	10%	-1	-1
韓国	10%	-2	-7
タイ	8%	+2	-2
トルコ	8%	+4	+4
イスラエル	5%	-4	+1
インドネシア	3%	-4	-4

## 7. 移民管理

対象: 2025年5月23日～2025年6月6日、参加30か国の16～74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

30か国全体で、移民管理を主要課題の一つとして挙げる人の割合は依然として17%です。

英国の**ブレグジット(EU離脱)国民投票**から9年が経ち、移民規制に関する懸念が過去最高を記録しました。懸念があると答えた英国国民の割合が5ポイント増加して5分の2(41%)となっています。これは昨年の6月より9ポイント高だけでなく、懸念が41%だった2016年7月(ブレグジット投票の1か月後)以来の最高レベルでもあります。

ポーランドでも不安は先月より5ポイント増加し、移民管理について懸念していると答えた人は4分の1(25%)に達しています。最新の**世界難民の日**の報告によると、ポーランド国民は難民に

対して悲観的である傾向があります。その理由は[こちら](#)で確認できます。

### 移民管理が最大の懸念事項となっている国:

- 英国(41%)
- ドイツ(37%)

# 17%

が、**移民管理**は自国が直面する重要な課題の一つだと答えています。

# 7. 移民管理

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。  
 出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
 フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

国	移民管理を懸念事項として選択した人の割合	前月からの変化	12か月間の変化
世界	17%	=	-1
チリ	41%	-2	-6
アイルランド	41%	+4	-10
英国	41%	+5	+9
ドイツ	37%	-1	+1
オランダ	29%	+2	-2
ポーランド	25%	+5	+6
フランス	24%	-1	-3
ベルギー	24%	-1	-9
スペイン	23%	+1	+1
トルコ	23%	+1	-17
カナダ	23%	=	+1
米国	20%	-4	-5
イタリア	18%	=	+3
オーストラリア	18%	-3	-2
スウェーデン	18%	+1	-6
日本	17%	+2	+7
南アフリカ	17%	+3	+3
シンガポール	15%	+1	-4
ペルー	13%	+1	+8
マレーシア	12%	-1	+1
インド	8%	=	+1
メキシコ	6%	-1	+3
コロンビア	6%	-1	-1
イスラエル	5%	=	+2
タイ	5%	-3	+1
アルゼンチン	4%	+1	+2
ハンガリー	3%	-1	-6
インドネシア	1%	=	-1
ブラジル	1%	-1	=
韓国	1%	=	-1

## 9. 気候変動

昨年末には、80%が2025年には地球の平均気温が上昇すると答えていました。それにもかかわらず、30か国全体で気候変動への言及は14%にとどまり、昨年同時期より3ポイント低下しています。

昨年の6月以降、懸念が大幅に増加した国はありません。実際、シンガポール(24%)は10ポイント低下し、メキシコ(15%)は2024年6月から11ポイント低下するなど、大幅な減少が見られた国もあります。

オランダのみ、懸念していると答えた人が前月比6ポイント増の28%と顕著な増加を見せています。しかし、これは昨年の6月と同じです。

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

# 14%

が、**気候変動**は自国が直面する重要な課題の一つだと答えています。

**気候変動が最大の懸念事項となっている国:**

なし

# 9. 気候変動

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

国	気候変動を懸念事項として選んだ人の割合	前月からの変化	12か月間の変化
世界	14%	=	-3
オランダ	28%	+6	=
シンガポール	24%	+3	-10
日本	24%	+1	-2
オーストラリア	21%	+1	-1
スウェーデン	20%	+1	+2
ドイツ	20%	-3	-6
フランス	20%	+1	+1
イタリア	19%	+1	-4
カナダ	18%	+2	-4
タイ	17%	-3	-7
韓国	17%	-1	-2
スペイン	16%	-2	-2
英国	16%	-3	-4
メキシコ	15%	+3	-11
ベルギー	15%	+2	-6
ポーランド	14%	=	+1
アイルランド	14%	-1	-1
米国	13%	+1	-5
インドネシア	11%	+2	-9
ブラジル	10%	=	-9
マレーシア	10%	+2	+1
インド	10%	-1	-3
トルコ	9%	=	+2
コロンビア	8%	+2	-2
チリ	8%	+3	+1
南アフリカ	7%	-1	=
ハンガリー	6%	+3	-2
アルゼンチン	5%	-1	=
ペルー	4%	-2	-5
イスラエル	1%	=	-1

## 12. 国家間の軍事的な対立

30か国で10人に1人(10%)が国家間の軍事的な対立について懸念を表明しています。

なお、現地実査はイスラエル、イラン、米国間の緊張が高まる前に完了しました。

私たちのリストの中で最も懸念している国のトップ4はいずれも進行中の紛争に近い国であり、特にポーランドとイスラエルが顕著です。

懸念を表明したポーランド国民の割合はわずかに増加して38%となり、昨年6月より3ポイント上昇しています。しかし、今年の最高スコアではなく、4月は39%を記録しました。

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

イスラエルもわずかに上昇して35%となり、昨年同時期より2ポイント上昇しています。

**国家間の軍事的な対立が最大の懸念事項となっている国々:**  
なし

# 10%

が、**国家間の軍事的な対立**が自国が直面している重要な問題の一つであると答えています。

## 12. 国家間の軍事的な対立

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

国	国家間の軍事的な対立を懸念していると回答した人の割合	前月からの変化	12か月間の変化
世界	10%	=	=
ポーランド	38%	+2	+3
イスラエル	35%	+2	+2
ドイツ	27%	+3	+4
オランダ	25%	+3	+6
スウェーデン	16%	+1	+4
イタリア	16%	+4	-2
フランス	14%	=	+3
ベルギー	13%	-1	-1
スペイン	12%	-3	=
英国	11%	-3	-4
日本	10%	-1	-2
韓国	10%	+1	-5
米国	10%	=	-3
オーストラリア	10%	+1	+2
インド	10%	-1	+2
アイルランド	9%	+1	+2
タイ	9%	+2	+4
カナダ	6%	+1	+2
シンガポール	6%	-3	+1
インドネシア	5%	+2	+2
ハンガリー	4%	-3	-3
コロンビア	4%	-3	-2
マレーシア	4%	-1	-2
メキシコ	4%	=	+2
南アフリカ	2%	+1	+1
ブラジル	2%	=	=
チリ	1%	-1	=
アルゼンチン	1%	-1	-1
トルコ	1%	-1	=
ペルー	0%	-2	-3

# 経済フォーカス

# 自国の経済状況

イプソスの**世界が懸念していること調査**と並び、毎月実施されている**世界消費者信頼感調査**は、30か国の一般消費者を対象に、国と個人のレベルにおける経済と金融について調査を実施しています。

以下のセクションでは、このデータの一部を用いて、今月の「世界が懸念していること調査」レポートの背景を説明しています。これは、国民が自国の現在の経済情勢をどのように評価しているかを示すものです。

詳細については、

**Emilios.Louca@ipsos.com**

までお問い合わせください。

# 現在の経済状況

30か国平均では、10人中4人近く(37%)が自国の現在の経済状況を良好と評価しています。

前年比で最も大きな減少幅を示したのはフランス(16ポイント減の12%)とドイツ(14ポイント減の31%)です。

昨年と同時期と比べて、経済に対する肯定的な意識が最も上昇したのはアルゼンチン(+19ポイント、34%)とペルー(+12ポイント、24%)です。

2025年6月は、メキシコの好景気スコアが2022年12月以来最低(36%)となっています。

一方、ポーランドは毎月5ポイント増加し、COVID-19パンデミック以来最高の好景気スコアを記録しています(2020

年2月は51%)。

## 経済を最も懸念している上位国:

- 韓国(91%が「悪い」状態だと回答)
- フランス(88%)
- 日本(87%)
- ハンガリー(84%)
- ペルー(76%)

# 16pp

フランスの好景気スコアは昨年の同時期と比べて16ポイント低下しています。



対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

# 現在の経済状況

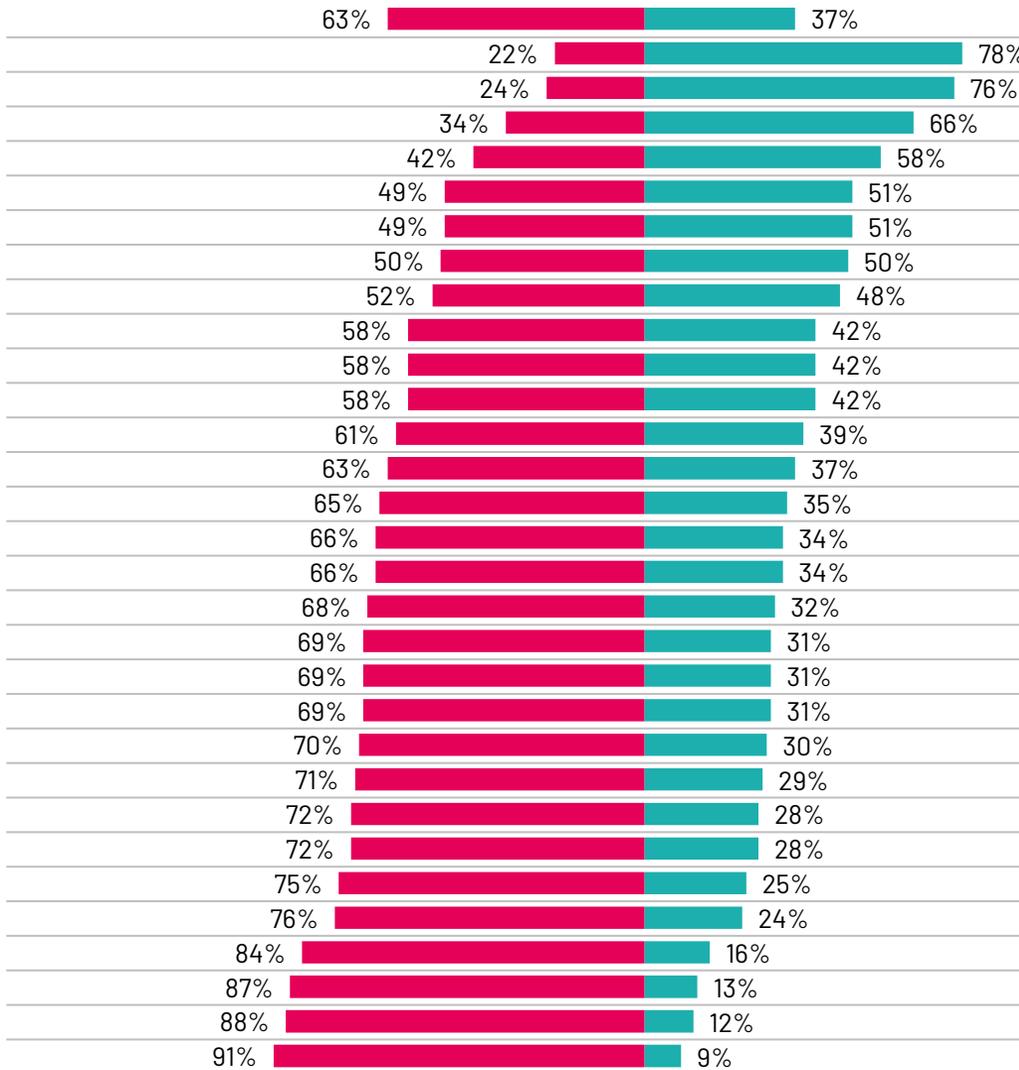
対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

## 国

世界
シンガポール
インド
マレーシア
オランダ
アイルランド
インドネシア
ポーランド
オーストラリア
米国
スウェーデン
メキシコ
スペイン
カナダ
タイ
ベルギー
アルゼンチン
イスラエル
英国
ドイツ
ブラジル
イタリア
コロンビア
チリ
南アフリカ
トルコ
ペルー
ハンガリー
日本
フランス
韓国

## Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



良い (red bar)      悪い (teal bar)

## 前月からの変化      12か月間の変化

+1	-1
+7	-3
=	-4
-3	+8
+6	-7
-3	+2
+2	-11
+5	+7
+7	+4
+7	+4
=	+1
-1	-9
-3	+5
+2	+7
-5	-10
+2	-7
+1	+19
=	+1
+3	-8
=	-14
+1	-5
+1	-2
+4	+3
-5	=
-7	+3
+1	+4
+6	+12
-2	-6
+6	+2
-4	-16
+1	-4



# 現在の経済状況

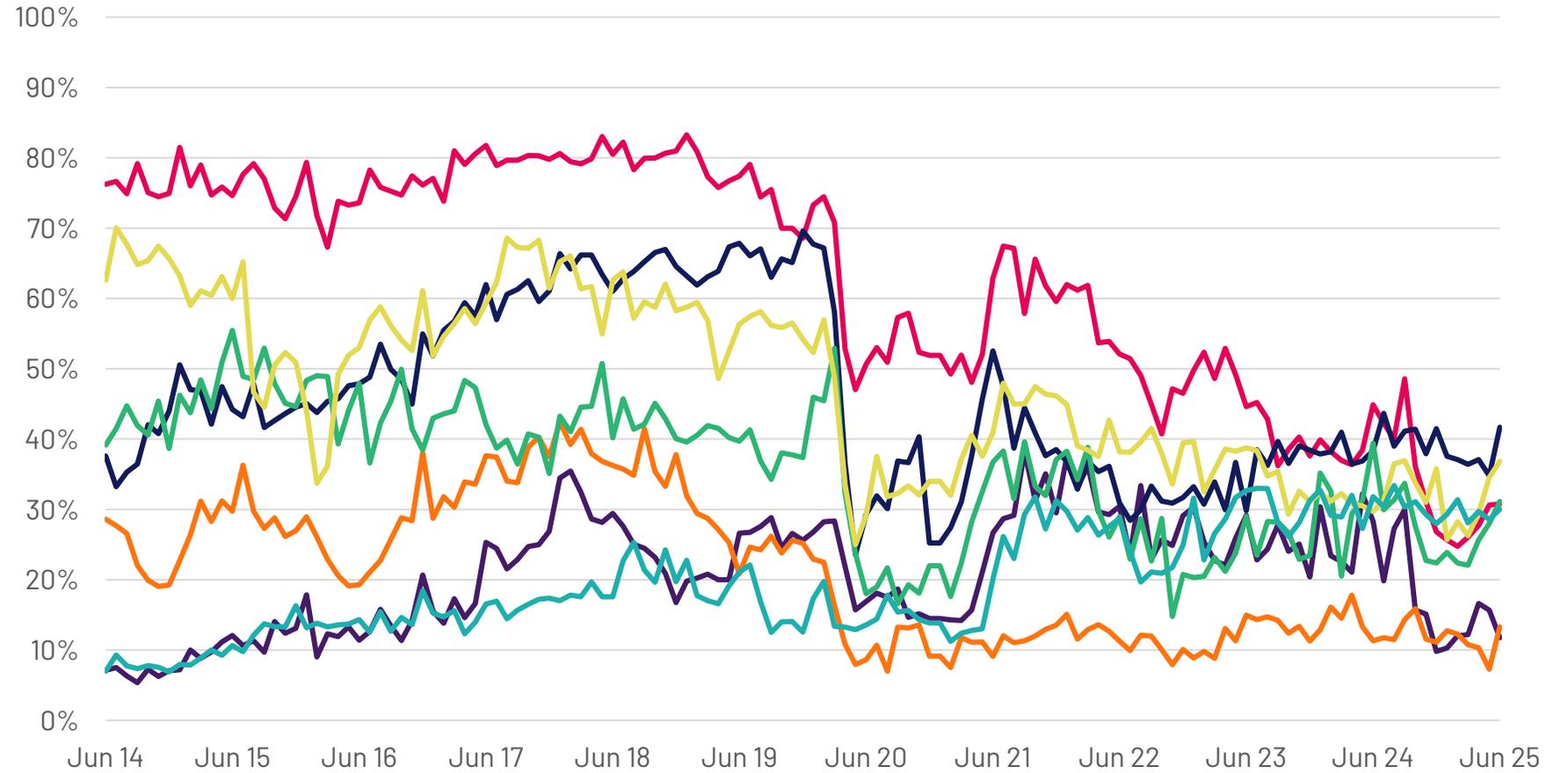
G7

%「とても良い」または「やや良い」

対象: 2025年5月23日～2025年6月6日、参加30か国の16～74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



フランス

米国

イタリア

カナダ

日本

ドイツ

英国

# 現在の経済状況

## 米国

%「とても良い」または「やや良い」

米国は先月の好景気スコアから7ポイント上昇し、2024年7月(44%)以来の最高スコアを記録しています。

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

## カナダ

%「とても良い」または「やや良い」

カナダは前月から微増し、2024年6月(30%)より7ポイント上昇しています。

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

## ドイツ

%「とても良い」または「やや良い」

ドイツは、好景気スコアが前年比で2番目に大きな下落率を記録し、14ポイント下落して31%となっています。

対象: 2025年5月23日～2025年6月6日、参加30か国の16～74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

英国

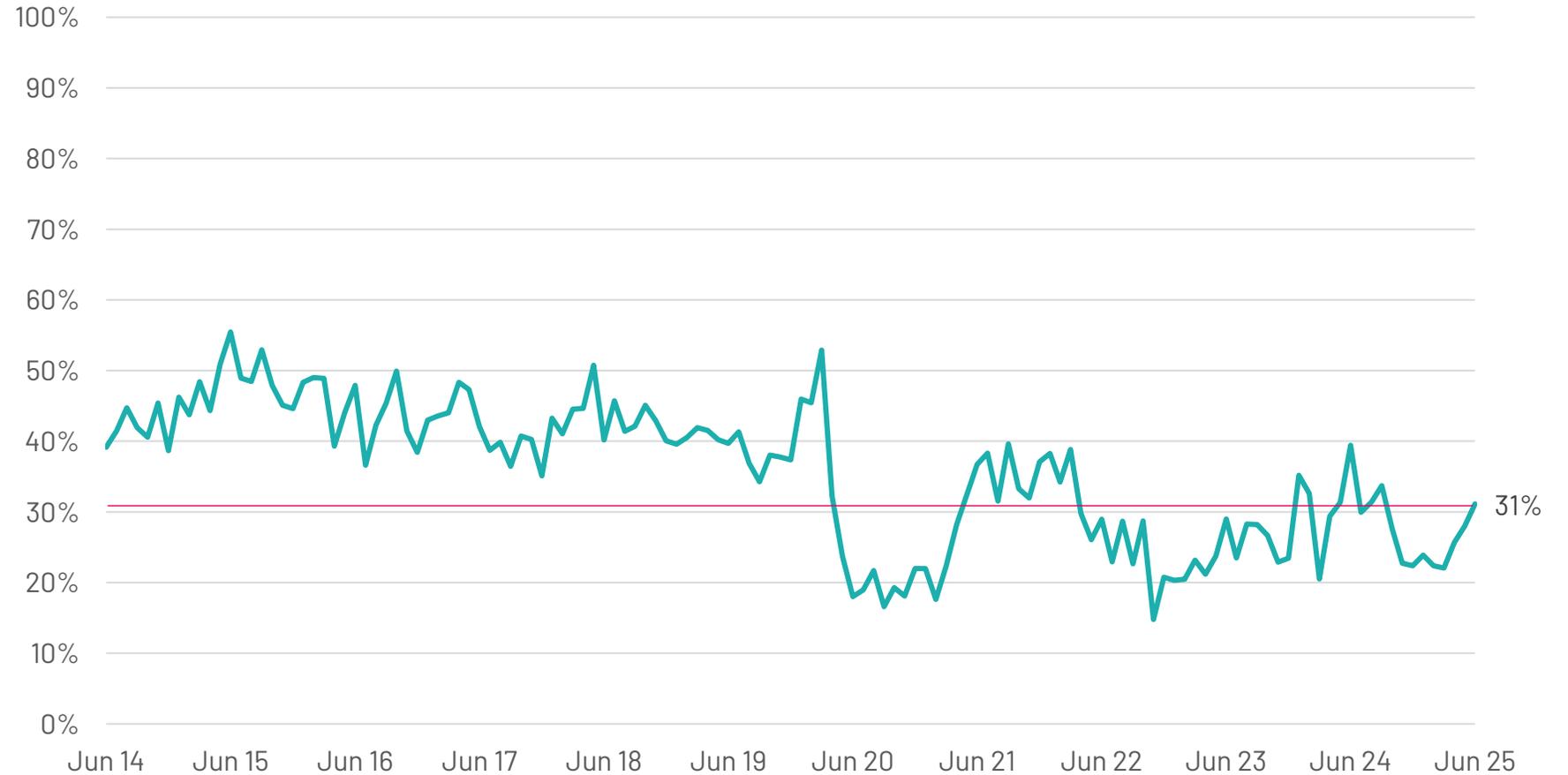
%「とても良い」または「やや良い」

英国の好景気スコアは過去3か月間で上昇し、現在は2024年9月(34%)以来の最高スコアとなっています。

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

イタリア

%「とても良い」または「やや良い」

イタリアの好景気スコアは、「世界が懸念していること調査」の30か国の中で最も安定し、一貫しています。

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

日本

%「とても良い」または「やや良い」

日本の好景気スコアは、コロナ以前と比べると依然として低いまです。

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

## フランス

%「とても良い」または「やや良い」

フランスは調査対象30か国の中で前年比最大の減少率を記録し、16ポイント減の12%となっています。

対象: 2025年5月23日～2025年6月6日、参加30か国の16～74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

## シンガポール

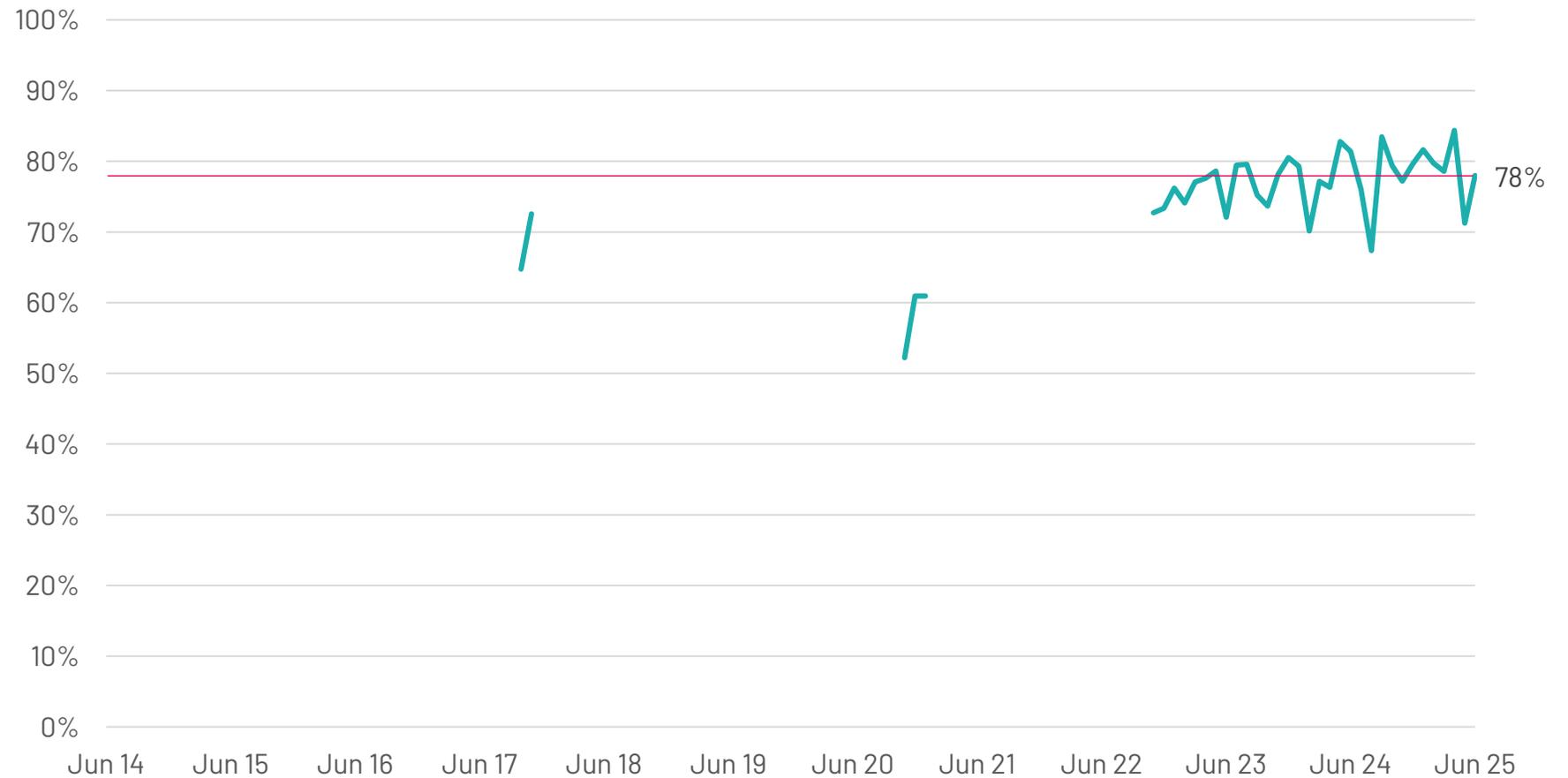
%「とても良い」または「やや良い」

シンガポールは5月から7ポイント上昇していますが、これは同国では比較的正常な水準です。

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

インド

%「とても良い」または「やや良い」

インドは76%のままです。これは2024年6月より4ポイント低い数字です。

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

## マレーシア

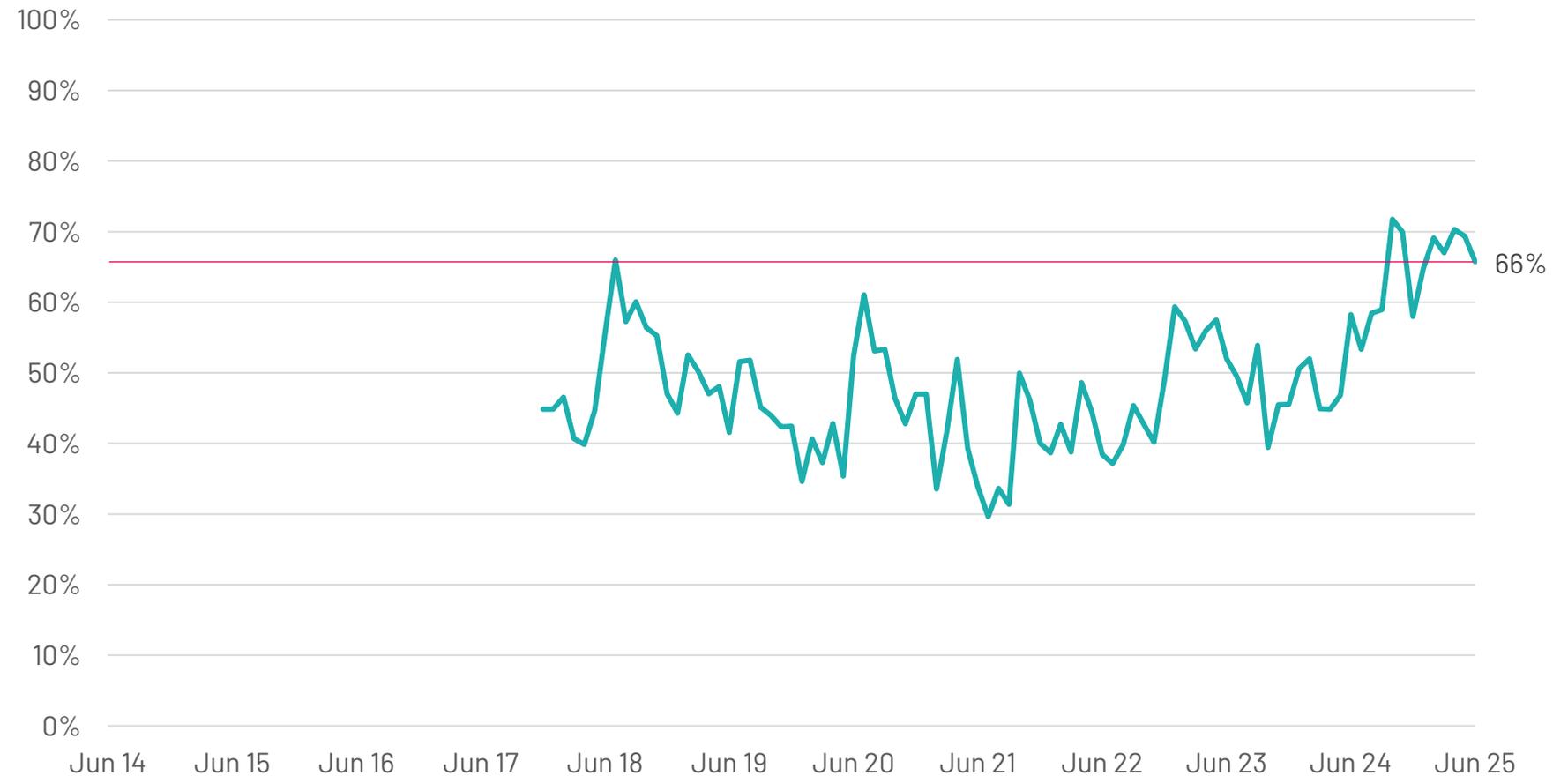
%「とても良い」または「やや良い」

マレーシアは5月から3ポイント下がっていますが、今年の同時期と比べると8ポイント高い結果となっています。

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

## アルゼンチン

%「とても良い」または「やや良い」

アルゼンチンの好景気スコアは、当社の調査に含まれる30か国の中で前年比で最も増加しました(19ポイント増で34%)。

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

## オーストラリア

%「とても良い」または「やや良い」

オーストラリアの好景気スコアは、COVID-19からの急速な回復後、インフレと生活費危機により大きな打撃を受け、2023年2月(52%)以降50%を超えることができていません。

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

## メキシコ

%「とても良い」または「やや良い」

2025年6月は前月から1ポイント下落し、メキシコの好景気スコアは2022年12月(36%)以来最低となっています。

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

ペルー

%「とても良い」または「やや良い」

ペルーは前年比で2番目に大きな増加率(+12)を記録したにもかかわらず、好景気スコアをコロナ以前の水準に戻すのに苦労しています。

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

ポーランド

%「とても良い」または「やや良い」

ポーランドは1か月で5ポイント増加し、COVID-19パンデミック以来最高の好景気スコアを記録しています(2020年3月は54%)。

対象: 2025年5月23日~2025年6月6日、参加30か国の16~74歳の25,727名の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年6月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 調査手法

この30か国グローバルアドバイザー調査は、イプソスオンラインパネルシステムを通じて、2025年5月23日から2025年6月6日の間に、カナダ、イスラエル、マレーシア、南アフリカ、トルコ、米国の18～74歳、インドネシアとタイの20～74歳、シンガポールの21～74歳、その他の国の16～74歳までの25,727人を対象に実施されました。

「世界各国平均」は、調査が実施されたすべての国における平均的な結果を反映しています。これは各国の人口規模に合わせて調整されておらず、全体的な結果を示すことを意図したものではありません。

サンプルは、オーストラリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、フランス、ドイツ、英国、イタリア、アイルランド、日本、スペイン、スウェーデン、米国の各国で約1,000人以上、アルゼンチン、チリ、コロンビア、ハンガリー、インドネシア、イスラエル、マレーシア、メキシコ、オランダ、ペルー、ポーランド、シンガポール、南アフリカ、韓国、タイ、トルコの各国で約500人以上で構成されています。

インドのサンプルは約2,200人で構成され、のうち約1,800人が対面でインタビューを受け、400人がオンラインでインタビューを受けました。

アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、カナダ、フランス、ドイツ、英国、ハンガリー、イタリア、日本、オランダ、ポーランド、韓国、スペイン、スウェーデン、米国のサンプルは、これらの国の75歳未満の一般成人人口の代表として考えることができます。

ブラジル、チリ、コロンビア、インド、インドネシア、マレーシア、メキシコ、ペルー、シンガポール、南アフリカ、タイ、トルコのサンプルは、一般人口よりも都市部に住み、教育水準が高く、裕福です。これらの市場の調査結果は、これらの人口の中でもデジタル接続性の高い、より「コネクテッド」な層の意見を反映しているものと見なすべきです。

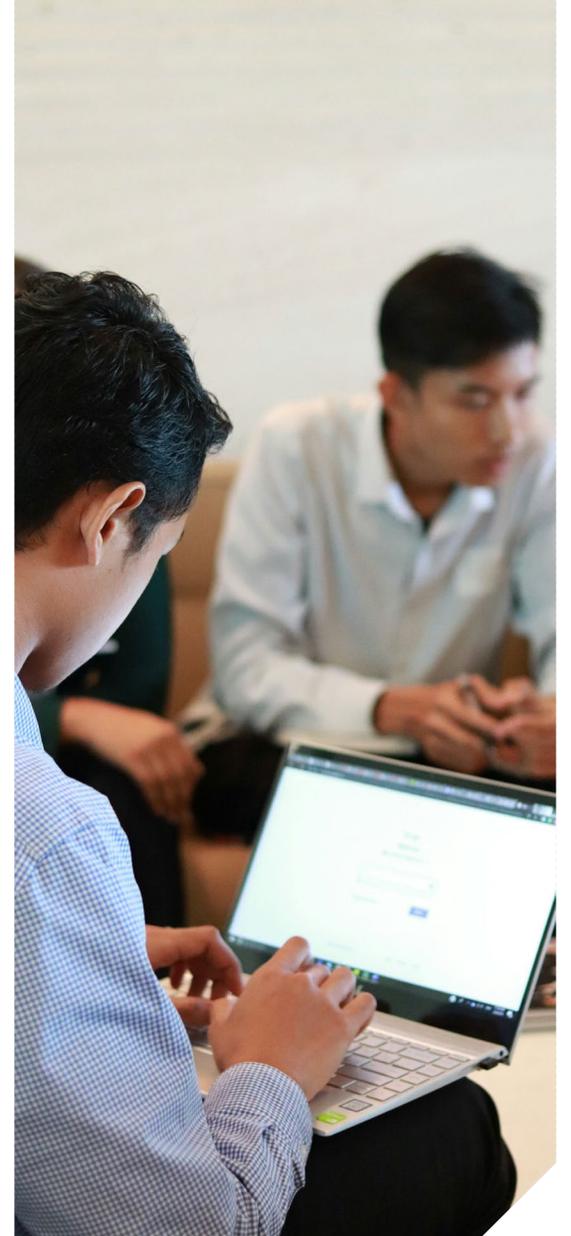
インドのサンプルは、都市部の人口の大部分、つまり大都市圏の社会経済階級A、B、C、および全4ゾーンのTier 1-3の都市の階級を表しています。

人口統計のバランスを取り、サンプルの構成が最新の国勢調査データによる成人人口の構成を反映するようにするために、重み付けが採用されています。

イプソスのオンライン世論調査の精度は、信頼区間を使用して計算され、1,000件の世論調査では $\pm 3.5$ パーセントポイントの精度、500件の世論調査では $\pm 5.0$ パーセントポイントの精度となります。イプソスによる信頼区間の使用に関する詳細については、イプソスのウェブサイトをご覧ください。

結果の合計が100にならない場合、または「差」が実際より $\pm 1$ 多い/少ないように見える場合は、四捨五入、複数回答、または「わからない」または未回答の回答の除外が原因である可能性があります。

この調査結果の公表は現地の規則および規制に従って行われます。



# THANK YOU

**CONTACT:**

[Teodros.Gebrekal@ipsos.com](mailto:Teodros.Gebrekal@ipsos.com)

**VISIT:**

[ipsos.com](https://ipsos.com)